ISSUE 4

FAST FOR SPEED FREAKS

underground fast hardcore magazine from tokyo

GUILLOTINE TERROR

SLAUGHTER

SKITSYSTEM

Wolfbrigade

DISGUST

SWARRRM

FAST for speed freaks #4

¡UNDERGROUND FAST HARDCORE MAGAZINE!

2nd print : August 5, 2003

FAST 4
for speed freaks

EDITOR :
EFU MATSUMOTO

EDITORIAL DESIGN :
F-FACTORY

WORLD HEAVYWEIGHT CHAMPIONSHIP
GUILLOTINE TERROR
V.S.
SKITSYSTEM

HARDCORE CHAMPIONSHIP
WOLFBRIGADE
V.S.
DISGUST

GRIND CHAMPIONSHIP
BATHTUB SHITTER
V.S.
SWARRRM

SPECIAL GUEST
SLAUGHTER

F-FACTORY 192-0372 東京都八王子市下柚木2-31-7-103
tel. 0426-70-6135 fax. 0426-70-6136 fast@f-factory.com
http://www.f-factory.com/
2-31-7-103 Shimoyugi, Hachioji-shi, Tokyo 192-0372, Japan

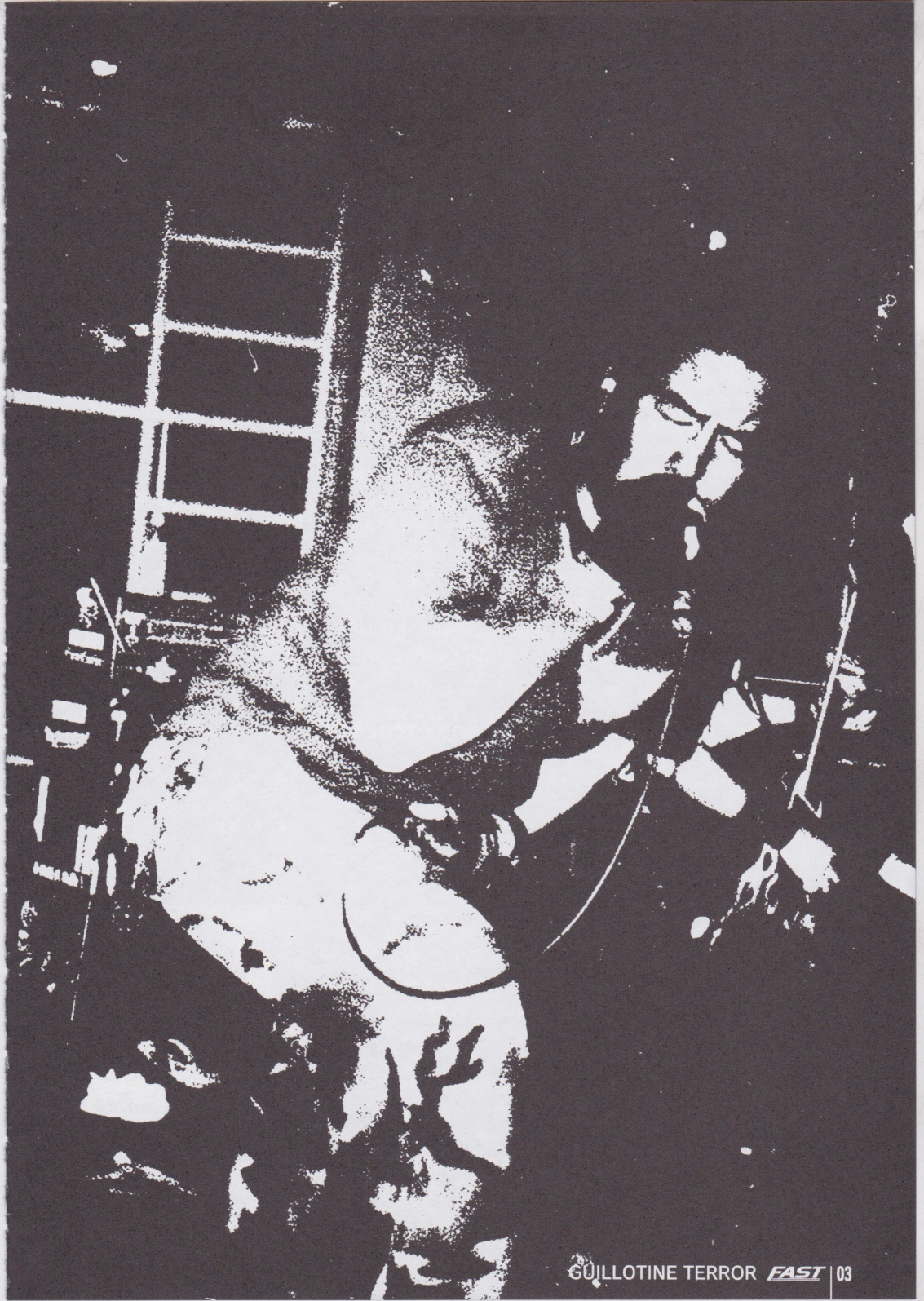
CONTENT POLICY

本誌『FAST』は"速"をキーワードに、世間で言われている"音楽ジャンル"で区切ることなく様々なバンドを掲載している。所謂スラッシュ、ファストコア、グラインド、クラスト、パワーヴァイオレンス等々、ハードコアといっても一概に同じサウンドを出しているわけではなく、かといってそれぞれを分別できないし意味がない。ひとつのスタイルにこだわって村意識を強めて、万人受けせずにマニアックでいることが決してハードコアではないし、基本はハードコア・ミュージックに取り組む姿勢や考えだと思う。

そのような考えでなければ、例えばDESTROYER 666、MISERY、HAEMORRHAGE、SIN DIOS、ROT、STRONG INTENTIONが同じ誌面に掲載されることはない。

あと、ハードコアって速い音楽だと認識していたが、ヘヴィメタルやその他の音楽からの影響によってスローなハードコアが活躍しているのは承知の通りだろう。そのようなハードコアに対する姿勢や考えをふまえた上で、好みの問題として速いハードコアが好きという結論に達したのが本誌だ。

一応念のため言っておくが、上記にあるスラッシュやファストコア等の言い方は、音楽そのものを説明するために便宜上使っているだけでジャンルではない、ということを理解していただきたい。

3rdアルバム『Battle Zone』を自らが運営するBATTLE PLANNINGよりリリースし、完全復活したGUILLOTINE TERROR。6年という活動休止期間をものともせず、徹底的に怒りをあらわにした姿勢とライヴに度胆を抜いた人も多いことだろう。口先だけで他力本願なバンドが多い中、できる限りのことは自分達の手で行なう正真正銘ハードコア・バンドだ。
さらに昨年11月末には企画ギグ「STREET ANARCHISM」を復活させている。出演するバンドは常に本気で取り組み、ステージングが格好良いバンドのみに限定している。ジャパコアからクラスト、グラインド等々スタイルの幅広さには驚かされ、毎回楽しみな企画ギグなので是非足を運んでリアル・ハードコアを体験していただきたい。必ず何か発見があると断言できる!!!
そしてGUILLOTINE TERRORは個の自由を侵す権力に対して徹底的に抗戦する!!!

INTERVIEW

── 6年振りに活動再開ということで、GUILLOTINE TERRORについて知らない人もいると思います。バンドをスタートさせた頃から現在に至るまでの経緯を教えてもらえますか?

Kurumi:まず90年にメンバーの募集をして、その時にギターのKatsuo達が入ってきて。91年から企画ライヴ「STREET ANARCHISM」を始めて、1stシングル『No God』を出して、その頃から本格的に活動を始めたって感じかな。その後も1stアルバム『Black Rebel Storm』や2ndアルバム『Japanese Corruption』を出しながら自分達の企画をやったり地方へ行ってやったりと、結構ライヴ活動をしていて順調にいってたんだけど、ドラマーが実家の家業を継がなくちゃならないということでバンドを辞めて、で一緒にバンドに入ってきたベースも「だったら俺も辞めるよ」って辞めてしまったんだ。だからベースとドラムに関しては、その後ヘルプを入れてやってたんだけど、いまいち納得のいくものができなくて、だったら一時的に活動停止ということで。それが96年?

Katsuo:うん、そのぐらい。

Kurumi:2ndアルバムを出したのが94年なんだけど、それから2年くらい活動していたかな。まぁそれで活動停止になったんだけど、その間、Katsuoとはスタジオに入ったりして。それで去年の11月30日に復活のライヴをやったんだけど、2年くらい前からスタジオに入って新曲作ったり、リハーサルをしたりしてたんだ。で、今回はドラムがいなかったので、LESS HAZEのRusher君に手伝ってもらって、ハードな練習にも付き合ってもらって(笑)。凄くツーバスのドラムが欲しかったし、どうしても叩いてもらいたかったんだ。やりたい事があったんだけど、それは共通する言葉なんかじゃなくセンスが自分達と合ってたんで、どんどん良いモノができていったんだ。

── この号が発行された頃は終わっていますが、4月や5月のライヴではどうするのですか?

Kurumi:その時は、ベースは違う人にやってもらうかもしれない。でもRusher君にはやってもらいたい、と(笑)。

一同:(爆笑)。

Kurumi:是非とも(笑)。

── やはりツーバスが叩けるというのが良いと?

Kurumi:そう、凄くデカイね。1stや2ndの頃もDISCHARGEのようなハードコア、ハードコア・パンクに影響を受けてそれをやりたいって思ってたんだけど、平行してデスメタルも聴いてたんで、メタリックな感じもやってみたいって思ったんだ。でもここでツーバスがあればなってところで、良い感じにツーバスを叩ける人がいなかったんだよね。Rusher君の場合は、俺等が言わなくてもドコドコ叩いているから良いんだ。

Rusher:そんな話、聞いたことなかったし、ツーバスが良いってのも聞いたことなかったよ(笑)。ツーバス入れたら怒られるかなぁって思ってたけど(笑)。

── たしかに、ハードコアやパンク・バンドだとツーバスを嫌う人って多いと思いますし。

Kurumi:うちらの場合は、ツーバスが入ると曲に緊張感も出てくるし良いんだよね。

── 少々話はズレますが、影響を受けたバンドって何ですか?

『No God』7"EP
(Battle Planning)

今から12年も前にリリースされた記念すべき1stEP。恐ろしいほどヘヴィ且つダークなメタリック・サウンドは、既にこの時点で確立されていた。日本語による歌詞も強烈。

『Son Of Bllleeeaaarrrr』7"EP
(Slap A Ham)

パワーヴァイオレンス総本山だったSLAP A HAMの52バンド69曲収録の名物コンピ盤。PHOBIA、MACABRE、C.F.D.L、CAPITALIST CASUALTIES等々強豪と共に参加!!!

『Fight Back vol.1』CD
(Fight Men)

EXTREME NOISE TERRORのメンバー参加のSARCASM、DOOMのメンバー参加のBUGEYED、ZONE、DISORDER等々、日英のグレイトなバンドばかり収録。

『City Rocker』Tape
(H.U.A)

東京、横浜、静岡、三重、大阪、香川より計9バンドが参加。他にLIFEやSTIFLE ROAM、CORED、INFECT、SACRIFICE、D.D.T、FILTHLY DEED、INVISIBLE STALKER収録。

『Bondage Maniac Vol.1』Tape
(Bondage Maniac)

全国より14バンド参加のコンピ。他にSLAVER、BLAZE、HEDGE HOG、R.S.D、FINE STUFF、TOXIC NOISE、MERCIFUL BANDIT、INVISIBLE STALKER、SOLTIC等参加。

『Black rebel Storm』CD
(Battle Planning)

中核派による武装蜂起時のジャケットの1stアルバム。極めてダーティーなハードコアとデスメタルの融合は、今聴いても斬新且つ独創性に満ちている。名盤!!!

Kurumi：俺は海外のバンドでいえば、DISCHARGEに一番影響を受けたね。日本のバンドでいえばGISM、GAUZE、LIP CREAM、鉄アレイ、DEATH SIDEとかにもの凄い深く影響を受けてるね。あと海外のデスメタルにも影響を受けているんで。例えばTERRORIZER。あとVENOMも凄く大好き(笑)。いや、本当に好きだね。あのドロドロした感じとか。

Rusher：俺はRIPCORDとかYOUTH OF TODAY、そしてSLAYERのデイヴ・ロンバート。あと俺もやっぱりVENOMが好きですね。手伝ってくれって言われる前から、KurumiさんとはVENOM話で盛り上がってて(笑)。VENOMは格好良いんだよねぇ。

Kurumi：ホントにVENOMにはやられたね。KatsuoもVENOM好きだから今日VENOMのTシャツを着てるけど、実は俺も今着てるんだ(笑)。

――わぁ、ホントだ(笑)。

Kurumi：最近またVENOMの編集盤みたいなのが出てて、あれ聴いてたらやっぱり格好良いなって。

Katsuo：俺はデスメタルでいえばBOLT THROWERがいいな。ハードコアだったらDISRUPTとか好きですね。

――EXTREME NOISE TERRORとかも?

Kurumi：凄い影響を受けてるねぇ。元々俺等のバンド名ってGUILLOTINEってバンド名だったんだけど、同名バンドがいたんでやめたんだ。俺等がバンドを始めた90年頃って、ちょうどEARACHE系と一緒にEXTREME NOISE TERRORが凄い勢いがあって、それに影響を受けてGUILLOTINE TERRORになったわけ。

Katsuo：あとスカンジナビア系も好きだね。

Kurumi：そうだね、俺等は皆好きだね。DRILLER KILLER好きだし、あとDISFEARとか。最近だったらWOLFPACKとか。

――GUILLOTINE TERRORとしての音は、それらを総合した感じでいこうと?

Kurumi：まず真にハードコアがあって、俺等はハードコアに対するこだわりというのは凄いあるんだ。メッセージ性とか不良っぽさが格好良いと思ったのも根本的にある。それでハードコアの精神性と不良っぽさに、デスメタルのメタリックな感じを融合させたバンドがいなかったから自分達でやってしまおうと。軽めのハードコアは好きじゃなかったんでね。

――レーベルのBATTLE PLANNINGを始めたのも関係していますか?

Kurumi：バンドを結成したときから、自主で完璧にやっていこうというのもあったんだよね。誰かに指示されてやるんじゃなくて、自分達でできることは全部自分達でやろうという旗印だよね。Katsuoと運営してて、自分達の作品はBATTLE PLANNINGから出して企画も自分達でやっていきたいと。他のバンドもBATTLE PLANNINGから出そうとは思っているんだけど、今のところはGUILLOTINE TERRORを出すということが第一かな。対外的にバンド名だけだと説得力がないんで、他の名前を持っていたいというのもあるね。

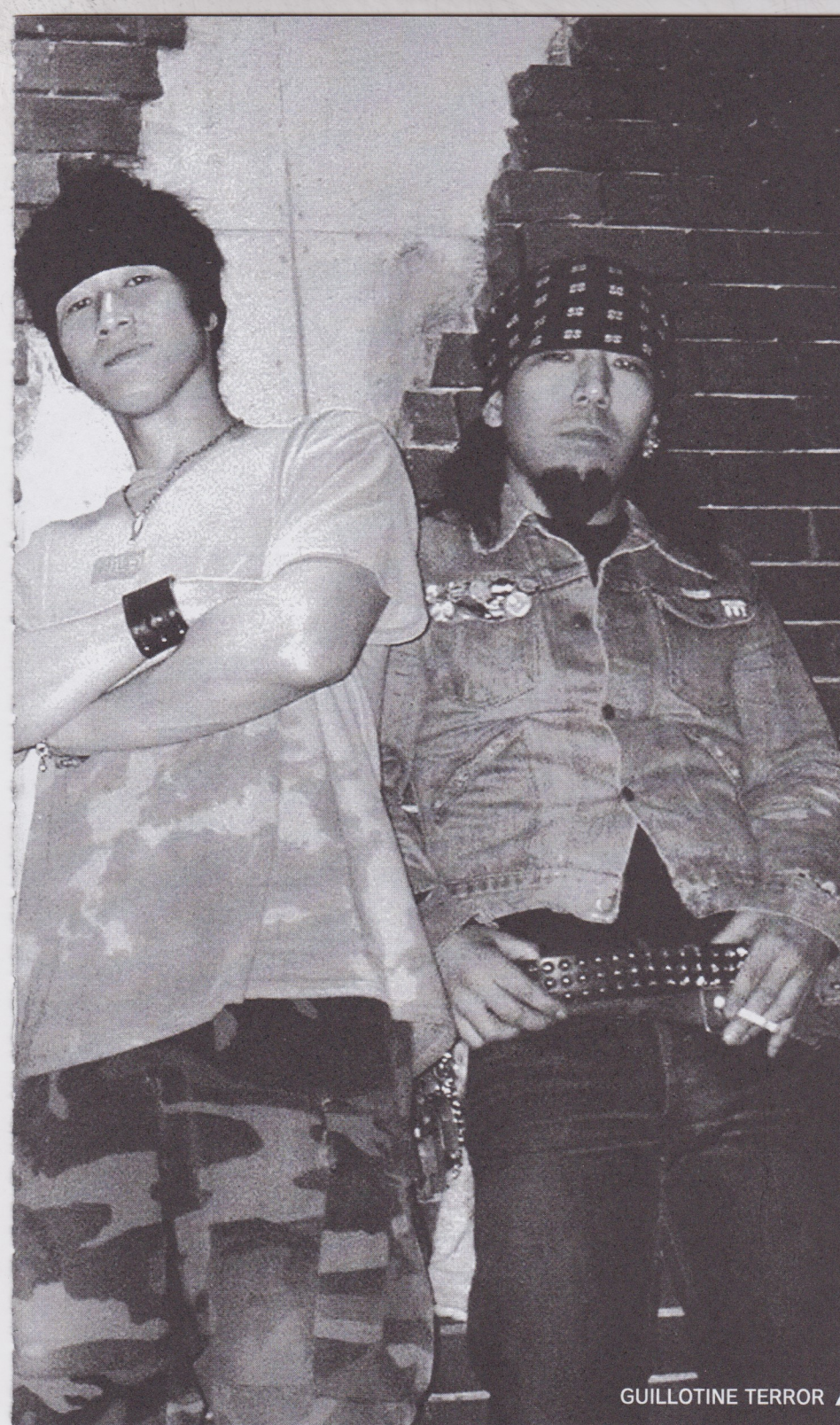
――毎回何枚くらいプレスをしているんですか?

Kurumi：1000枚単位で。

――各ショップに配るのも自分達で?

Kurumi：そうだね。流通を自分達でやるのがハードコアだと思うんでね。でも全国

左からギターのKatsuo氏、ヴォーカルのKurumi氏、ドラムスのRusher氏、そして新加入の元CRUCIAL SECTIONのSawada氏。

義狼魑武掟羅亜

6.28(土)新宿 CLUB DOCTOR「League Of Faith」
7.6(日)新宿 D.O.M

[STREET ANARCHISM TOUR 2003]
7.12(土)新宿 D.O.M「Street Anarchism vol.41 ～義ノ狼～」
7.19(土)新潟 WODDY
8.10(日)名古屋 OYS
8.11(月)福知山 SOUND RATT
8.12(火)広島 BAD LAND
8.14(木)飯塚 BOOTH
8.16(土)四日市 CLUB CHAOS
8.24(日)十三 FANDANGO

9.21(日)旭川 CASINO DRIVE
9.22(月)札幌 COUNTER ACTION
10.11(土)新宿「Street Anarchism vol.42」

お問い合せは各会場、またはBATTLE PLANNINGまで。

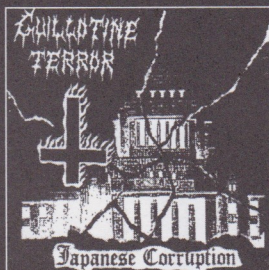
『Death Is Inevitable』CD
(H.S.R)

8バンド参加のコンピ盤で、STANCE OF CHAINの追悼曲等を提供。他にBODY SNATCHERS、G.M.F、EXILE、SOLTIC、S.C.BRAIN、GABIS、GRADE THREEH収録。

『Truth?』12"EP
(Discipline)

新宿の老舗レコードショップVINYLのレーベルDISCIPLINEよりリリースの12"EP。LIFEやC.O.S.A、ASHRAIN、DEFICANCE、BLOOD BATHと共に参加。

『sword Of Thrash vol.5』CD
(Stinger)

シリーズ化した大人気コンピレーション第5弾。ACCOMPLICE、BATTLE OF DISARM、IDRA、RESURECTION、SUKATORO ONANIE SYSTEMが参加している。

『Japanese Corruption』CD
(Battle Planning)

権力を悪用した政治や盲目な狂信的宗教団体等に対する反発を、スピード感溢れるブルータル・ハードコアなサウンドにのせて吠えまくる脅威の2ndアルバム。

『Release』CD
(Stinger)

LESS HAZE、ANTI AUTHORIZEとの3way CD。特筆すべき点は、なんとGUILLOTINE TERROR初のカヴァー曲を収録。しかもDAMNEDの「New Rose」なのだ。再発希望!!!

『Battle Zone』CD
(Battle Planning)

ブルータル・デスメタリック・ハードコアを体現した新作且つ名盤。攻撃対象を明確に示して徹底的に叩き潰す様は重戦車で、まさにバトルゾーン。重さは極限まで達している。

の人が手に入れるようにするには、流通専門の会社に依頼しないとできないんだよね。その会社から連絡があって、まだ返事をしていないんだけど。

── 数パーセントとられますよね。
Kurumi：まぁ別に、これで食ってこうって思っていないし、好きでやっているだけだからね。自分達の主張が伝わるのなら多少構わないけど。

──「STREET ANARCHISM」には今までどういったバンドが出演しているのですか？
Kurumi：GAUZE、鉄アレイに出てもらって、あとは自分達と同じラインにいるバンドかな。ちょうど俺等が活動しはじめた頃に活動してたバンドっていえばPILE DRIVERとかね。口では全て説明できないくらい、いろんなバンドに出てもらっているんだ。根本的に格好良くないバンドは出したくないね。あと条件としては、激しい部分がある、熱いモノがあるってこと。vol.38についてはクラスト、ジャパコア、ニュースクール、グラインド、俺等はメタリックなハードコア、それぞれ違ったポジションの最前線で活躍しているバンドを集結させたって感じかな。そういうことを、今後も継続してやっていきたいなと。

── 僕自身もファンジンを作る上で、そういった括りは無視していきたいと思ってますね。
Kurumi：囲いを作って、その殻から抜け出さずにやってると収縮していくだけだと思うしね。ニュースクールもね、ハードコアとして観たくはないし根本的に好きじゃないんだけど、良いものを出してそれなりに活動しているバンドって最近いるような気もするんだよね。そういうバンドとは一緒にやっていきたいなと。

── やっぱりハードコアって分離してしまっていますよね。
Kurumi：そうだね。「BURNING SPIRITS」系、クラスト系、そしてニュースクールはまた全然違うし。それとはまた違ったところでSLIGHT SLAPPERSのようなファストコアの流れもあるし。あと西荻WATTSでやっているようなハードコア・バンドもいるし、とにかく全てがバラバラ。バラバラでも良いは思うんだけど、お互いに良いところは認め合って、たまにライヴをやって交流があってもいいかなと。ただ、主張を持っているということは大切だと思うので、それが理由で分かれているのなら仕方ないけどね。俺等の場合は、そういった隔たりなくやっていくけど。

── でもハードコアのライヴって一概にはいえないですが、身内で盛り上がっているライヴもありますよね。そうすると、他人が入り込む雰囲気ではない空気があったり。
Kurumi：たしかにそういうライヴはあるかもね。人からの勧めでライヴに来たりしなくても、純粋に自分達の好きなことをわかってくれて、それでライヴの動員数が増えればいいなと思うね。俺等としても、ライヴはしばらくやっていなかったんで、これから精力的にやるんで。やっぱりハードコアはライヴをやらないとね。ライヴを観て伝わっていくと思うんで。俺等も今までの作品は良いものを作ってきたけど、ライヴを観ればより強烈なインパクトを与えると思うんで、是非観て欲しいね。

BATTLE PLANNING
TEL:090-8810-7232
E-mail: guillotine-terror-kurumi@docomo.ne.jp Web Site: http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=guillotine

本誌を読んでいて知らない人はいないであろうSKITSYSTEMは、現在のスウェディッシュ・ハードコア界を牽引しているといって間違いない。ライヴ数とレコードのリリース枚数は当然のごとく多いし、メンバーが他のバンドに参加したりしているので、何らかの形でSKITSYSTEM絡みの音源は持っているはずだ。クラストコアもグラインドコアもデスメタルも超越したハードコア・サウンドは年々凄みを増して、聴く度にブルータルな世界に引き込まれ、音と共に吐き出される怒りの叫びが自分の耳に突き刺さる。今回、Fredにインタビューを試みた。

INTERVIEW

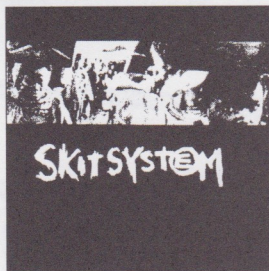
── 最近、調子はどうですか?

Fred:素晴しい音楽が聴けて、たくさんビール飲める、ホントにイイ感じだね。もしそれらが無かったら最悪だけど。

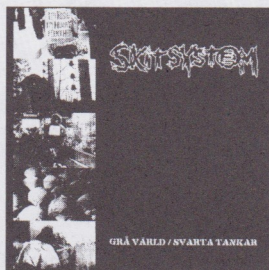
── では、最初にSKITSYSTEMというバンド名の由来を教えて下さい。世界中のシステムについて何か不満があったからSKITSYSTEMって名にしたんですか?

Fred:そうだな。キミは世界中のシステムについて不満を思っているからって考えているようだけど、特にクソったれなスウェーデンのシステムに対する意味なんだ。

── SKITSYSTEMの現在までの経緯について教えて下さい。あとリリースしたレコード全てを教えてもらえますか?

Fred:元々俺らはSYSTEM COLLAPSEというバンド名だったんだけど、1994年に現在のSKITSYSTEMにバンド名を変えてあらたにスタートしたんだ。それで最初の音源は『Profithysteri』というEPで、DISTORTIONからリリースしたんだ。翌年には有名な10インチ『Ondskans Ansikte』を、再びDISTORTIONからリリースした。その後、1997年にレーベルメイトのWOLFPACKとスプリットをリリースして、HAUNTEDやCRADLE OF FILTHでプレイしていたAdrianが俺達のドラマーとして加入したんだ。彼はDISPENSEのKalleによって呼び戻されたんだ。で、シカゴのCIPPLED HEROESと3週間にも及ぶアメリカ・ツアーを1998年にやって、次の年には俺達にとって初のLPでもある『Gravarld/Svarta Tankar』をリリースしたね。それもまたDISTORTIONからだ。その後はフェスティバルとギグをたくさんやって、

『Profithysteri』EP
(Distortion)
SKITSYSTEM初音源にあたるスカンジ・ハードコアならではの1stEP。6曲収録。

『Ondskans Ansikte』10"EP
(Distortion)
この作品によってSKITSYSTEMは世界的に有名なバンドになった。名盤!!!

split EP with WOLFPACK
(Distortion)
SKITSYSTEMは3曲収録。(下)ブルータル度の高い初のフルアルバム。

『Gravarld/Svarta Tankar』CD
(Distortion)

2001年にNO TOLERANCEとHAVOCから『Enkel Resa Till Rannstenen』を、2002年にはNO TOLERANCEからNASUMとのスプリット7インチEPをリリースした。そして今年、DISTORTIONから『Allt E Skit』という、古い音源全てを入れたディスコグラフィーCDをリリースしたんだ。

——あなたはどんなバンドに触発されたの?
Fred:MOB 47、ASOCIAL、TOTALITAR、DISRUPT、DOOMとかだね。

——ハードコアまたはクラストコア・シーンについてはどう思う?
Fred:スゲエ良い感じだと思うよ! だけどシーンの中にも、クソ忌々しいポリスやPCファッカーのようなクソ野郎共がたくさん存在することがムカつくね。スウェーデンのシーンは、毎年たくさん素晴らしいバンドが出てくるから、今大きくなってきているよ。

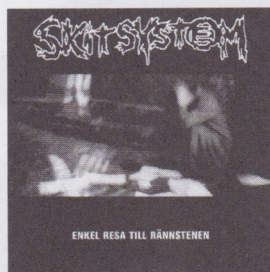
——現在スウェーデンのハードコア・バンドやスカンジナビアのハードコア・バンドが人気あるけど、どう思いますか?
Fred:特にアメリカや日本では人気が高くなってきているよね。俺には理由が判らないけど、良い状況になっていることはそれはそれで良いんじゃないかな?

——スウェディッシュ・ハードコア・バンドがデスメタル的になるのはどうしてでしょうか? 判りますか?
Fred:キミが聞きたいことと違うかもしれないけど、俺なりに解釈して答えてもいい

かい？ それとも多くのデスメタル・バンドのミュージシャンが、ハードコア・バンドのメンバーになるのはなぜかってこと？ 俺達はグライディング・デスメタルのメタリックなサウンドが好きなんだよ、ただそれだけ（笑）！

―― でもSKITSYSTEM以外のバンドでもプレイしてますよね？ 例えばSTRAIGHT EDGE MY ASSやLOCK UPです。SKITSYSTEMとどう区別しているのですか？
Fred：違いは全くないけど、暇つぶしにやっているプロジェクトなんだよ。他のプロジェクトでやってることをSKITSYSTEMでやったりはしないよ。だから他でプレイすることに関しては全く問題ないね。

―― ところで以前はDISTRTIONからリリースしていたのに、今はなぜリリースしなくなっちゃったの？
Fred：アメリカではHAVOC、DISFEARのBjornとDennisというナイスガイによって運営されているNO TOLERANCEにスイッチしたんだけど、たくさんのオーディエンスに聴いてもらいたかったからだよ。

―― 『All Ar Skit』と『All E Skit』って2種類のコンピレーションが存在しますよね？ 内容は同じですが…。
Fred：実はこのCDをリリースするのが3年も遅れてしまったんだ。そのために『All Ar Skit』というブートレッグ・バージョンがアメリカでリリースされたんだ。で、"本

『Enkel Resa Till Rannstenen』LP
(Notolerance/Havoc)

split EP with NASUM
(Notolerance)

『Allt Ar Skit』CD

(左上)スカンジ・ビート満載の最強作で、名盤との呼び声も高い2ndフルアルバム。(左下)ハードコアとメタルの垣根を越えて活動するメンバー在籍の両バンドは、現在のスウェディッシュ・ハードコアの中心的存在でありながら、スウェーデンらしいサウンドを聴かせる代表格。(上)本文中でFredはブートレッグと言っているが、裏ジャケットにはブートレッグではないし、ギャラも渡していると記されている。オフィシャル・ブートといったところか。ちなみにジャケット違いのDISTORTIONの"本物"は最近リリースされた模様。しかし約1年前のDISTORTIONのカタログに掲載されていたジャケットとまた異なる。

物"の『All E Skit』はDISTORTIONからリリースされているよ。

――DISTROTION RECORDSについてはいろいろ嫌な噂を聞きます。実際どうなのでしょうか?

Fred:たしかにそうだね。いろいろ理由があるとは思うのだけど。でも、俺達にはフェアに接してくれるし対応もしてくれる。もし何かやらかしたら、俺達は同じ町に住んでいるから直接オフィスに行って奴のケツを蹴りあげるよ。

――最近の活動内容、または今後の予定を聞かせてください。

Fred:4月末にVICTIMSとヨーロッパ・ツアーをして、今は新しいLPを作っているところだ。すでに6、7曲できたよ。今年の年末か、SKITSYSTEM結成10周年の年である2004年の年始にリリースする予定だ。

――日本についての印象は?

Fred:俺等からすると背が低い人が多いと思った。あとクレイジーなパンクロッカーも多いね!!! 日本でライヴがしたいよ!!!

――では最後にメッセージをお願いします。

Fred:もし日本でライヴできることになったらMELT BANANAやUNHOLY GRAVEといったバンドとプレイしたいね。あと、キミは凄いクレイジーだ!!!

Wolfbrigade

SKITSYSTEMと並び、あの毒舌で有名なHavocも認める程スウェーデン・ハードコアを代表するWOLFBRIGADE。激しくノイジーなサウンドでありながらメロディックなパートを大胆に導入しているので広く支持されているが、非常に硬派なイメージが付きまとう。サウンドが素晴しいのはもちろんのこと、黒を基調としたアートワークや元々ANTI CIMEXのメンバーが在籍していたなどの理由によるところも大きいだろう。いずれにしても強力なハードコア・バンドのひとつであることに間違いない。また最近リリースされたEPは攻撃一辺倒で、本領発揮といったところだ。ということで、新加入した若きDaddeにいろいろ話を聞いてみた。

INTERVIEW

── まず最初にWOLFBRIGADEというバンド名の由来を教えて下さい。たしかWOLFPACKという同名のギャングが存在したから、名前を変えたんですよね?

Dadde:正確に言うと、WOLFPACKという極端な態度をとっていた右翼組織がいて、それで俺達としては、そいつらに間違われることにウンザリしていたんだ。バンド名を変えて、全く新しいバンドと思われるのが嫌だったのでWOLFPACKからWOLFBRIGADEにしたんだよ。

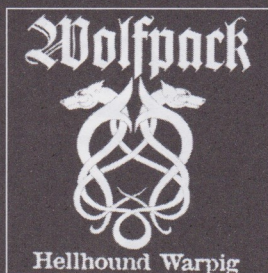
『Bloodstained Dreams』MCD
(Distortion)

── なるほど。WOLFPACK、WOLFBRIGADEの簡単な歴史を教えて下さい。

Dadde:1995年にスタートしたんだ。その時のラインナップは、シンガーがJonsson、ギターがJockeとErik、ベースがMarkus、ドラムがFrankだった。でもその後シンガーがMickeに、ドラマーとして俺が入ったんだ。これまでに1995年に『Bloodstained Dreams』MCD、1996年に『A new dawn fades』CD、1997年に『Hellhound Warpig』7"EP、『Lychantro Punk』CD/LP、そしてSKITSYSTEMとのスプリット7"EP、1999年に『Allday Hell』CD/LPをリリースしている。2000年にはWOLFBRIGADEに改名後初の音源としてAUDIO KOLLAPSEとのスプリット7"EP、2002年には『Progression/Regression』CD/LP、そして今年『The Wolfpack Years』という10"EPをリリースしているんだ。ちなみに、もうすぐリリース予定のニューアルバムのタイトルは『In Darkness You Feel No Regrets』っていうんだ!!!

『A New Dawn Fades』CD
(Distortion)

── あなた達はどういったバンドに触発されましたか?

Dadde:俺達はエルビス・プレスリーからグラインドコアまで、あらゆる音楽に影響を受けてるね。でもバンドとして直接影響を受けているのはPOISON IDEA、ANTI CIMEX、MOTORHEAD、HIS HERO IS GONE、TRAGEDY、SLAYER、ENTOMBED、NIHILIST、AT THE GATES、CIRCLE JERKS、ASTA KASK、STREBERS、PUKE、PAINTBOX、GISMとかだね。

『Hellhound Warpig』7"EP
(Distortion)

(右上)1995年リリースされた11分で4曲収録の記念すべき1st音源。基本的には典型的なスウェーデン流ハードコア・サウンドだが、嫌味にならない程度にスカンジナビアのメロディック・デスメタルを彷彿させるメロディアスなギターを導入している。それほどノイジーな感触はないが、これはスウェディッシュ・ハードコアの名盤だ。ちなみにこの時期のヴォーカルは、なんとスウェディッシュ・ハードコア界のカリスマANTI CIMEXのヴォーカリストだったJonsson。(中)1996年リリースの13曲収録1stアルバム。リリース後スウェーデンで開催されたロックフェスに参加している。(上)その翌年にリリースされたEP。

── たしかDaddeは、他のメンバーより10歳近く若いよね。年齢差による意見の相違のようなことってない?

Dadde:そうだね。俺はパンクに出会ってからまだ9年しか経っていないんだ。だから俺の周りにいる奴らなんて年寄りばかりだよ。でも、俺の生活のほとんどが音楽に費やされているからな。ある意味俺の周りの奴は子供っぽいけどね(笑)。

── ハードコアやクラストコアのシーンについて、どう感じてますか?

Dadde:とってもよい状況になっていると思うよ。良いバンドがいて、世界レベルでツアーも出来て、いろんな人と出会える。D.I.Yな考えだよね、俺は好きだな。

── では、現在のスウェーデンのハードコア・シーンについて教えて下さい。

Dadde:今、スウェーデンには素晴らしいバンドがたくさんいるんだ。しかも新しいバンドもいっぱいいる。例えばTO WHAT END?。このバンドにはWOLFBRIGADEのメンバーが2人参加しているんだ。あとIMPERIAL LEATHER、ファスト・クラストコアのVICTIMS、ダウンチューニングをしたメタルクラストのAMBULANCE、クラスティー・ハードコアのACURSED、スラッジュ・ハードコアのSECOND THOUGHT、スラッシュコアのBRUCE BANNER、「BURNING SPIRIT」スタイルのスウェディッシュ・ハードコアのSKITKIDS、WOLFPACKスタイルのブラックメタル・

クラスト等々。

── ところで、以前WOLFPACK時代はDISTORTION RECORDSからCDをリリースしていましたよね。でも今はなぜDISTORTIONから出さなくなったの?
Dadde:リップオフした奴がレーベルを運営しているからだよ。

── なるほど...。ではスウェディッシュ・ハードコアと北欧のハードコアって、現在世界的に人気が高いですよね。あなた的にはどう思いますか?
Dadde:そうだね、俺もそう思っている。でも俺にはその理由はわからないよ。ただ、今スウェーデンとフィンランドの多くの素晴らしいバンドは、カミングアウトしちゃっているよね。

※この上写真は、デビュー1st音源『Bloodstained Dreams』リリース時のラインナップ。

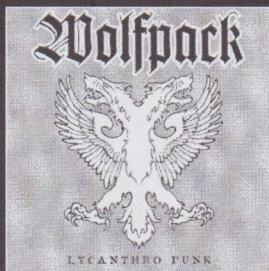
── そのスウェーデンのハードコア・バンドについてですが、なぜデスメタリックになる傾向にあると思いますか?
Dadde:たしかに、俺も多くのハードコア・バンドがデスメタルっぽくなる傾向にあるように思うね。俺なりの考えだが、おかしな話かもしれないけど天候による部分も大きいんじゃないかな。少なからずメタルヘッズとパンクスにはダークマインドがあると思うんだけど、それは1年間通してどんよりした日が多くて、その中で生きていくために俺等の音楽みたいなものを聴いて気を紛らすんだと思うね。

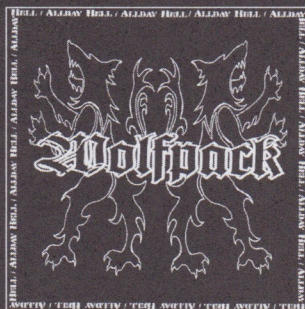
── 日本にMARDUKが来た時、ツアークルーがWOLFPACKのTシャツを着ていました。あとWOLFPACKのメンバーはMARDUKのメンバーと一緒にMOMENT MANIACSでプレイしていますよね。スウェーデンではハードコアとヘヴィメタルの交流は盛んなのですか?

Dadde：実際それほど多くないと思うよ。MARDUKの奴らと一緒にプレイしていたのはJockeとJonssonじゃないかな。SKITSYSTEMとDISFEARのメンバーであるTompaはLOCK UPをはじめ、たくさんのメタル・バンドに参加しているよ。でも、そのようなスタンスで活動している人って少ないよ。NASUMのようにメタルやパンク、ハードコアのスタイルを超越したバンドもいることはいるけど。でも世間で言うエクストリーム・ミュージックが決してエクストリーム・ミュージックではないよ。

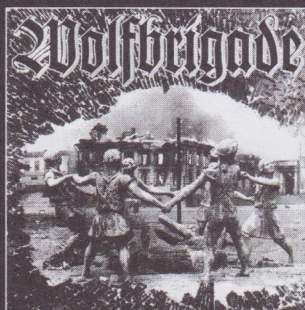
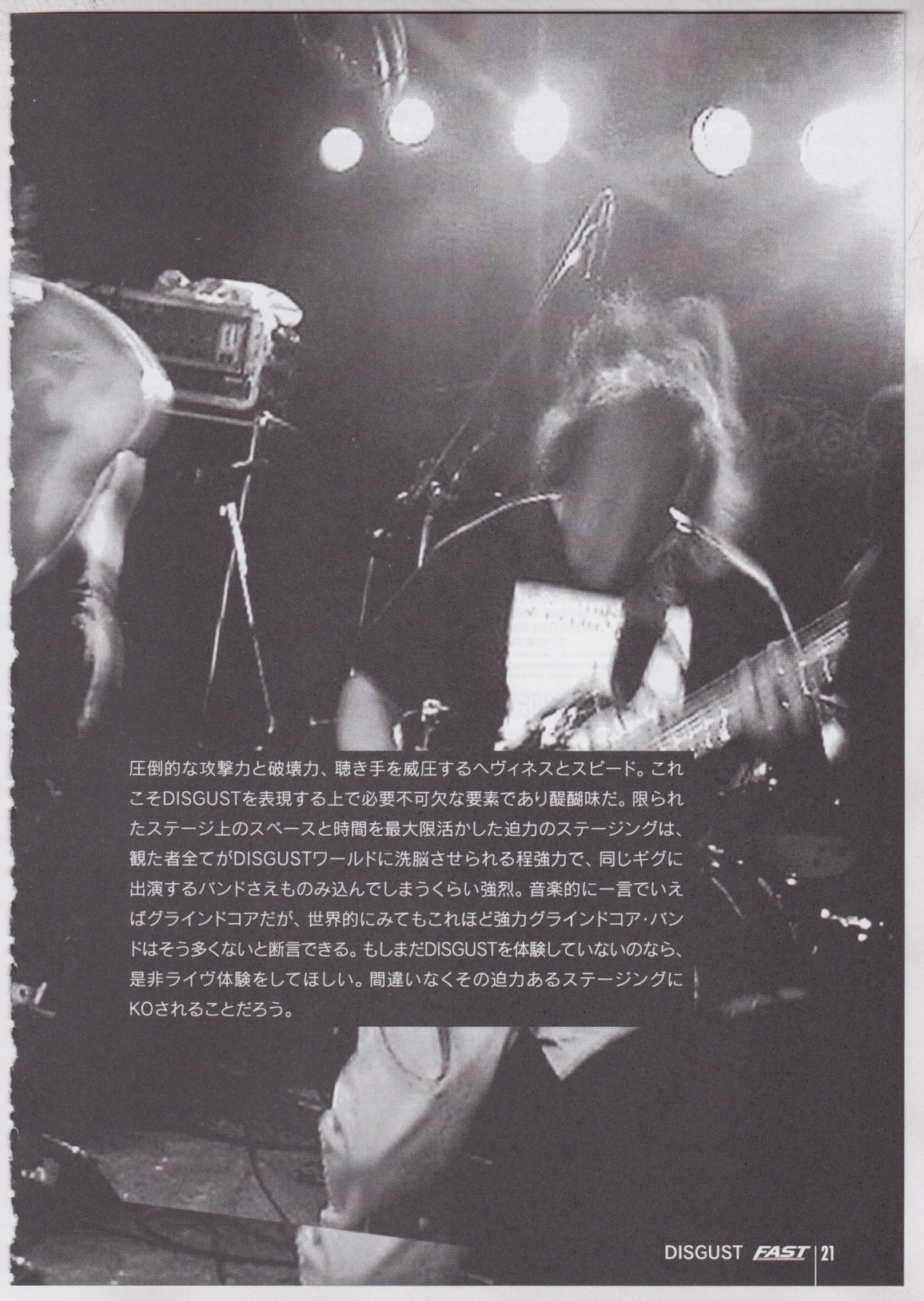
―― 日本についてはどう思う？
Dadde：クレイジーなハードコア・シーンがあって、本当にクールな国だと思っているよ。

―― では最後に今後の予定と、何かコメントをお願いします。
Dadde：もうすぐニューLPをリリースして、いろいろショウをやることになっているよ。昔の音源もそのときリリースしたレーベルじゃないところから出す予定になっている。俺に関して言えば以前精神的に酷かったときもあったけど、今は凄くハッピーな生活を送っているよ。最近ベルリンやアムステルダムをツアーしたんだけど、俺はそのときベストな状態だったね。

※今年、Feral Ward/Farwelよりニューアルバム『In Darkness You Feel No Regrets』をリリース予定。また『A New Dawn Fades』と『Lychantro Punk』がそれぞれFeral WardとDerangedからリリースされる予定!!!

『Lychantro Punk』CD
(Distortion)

split EP with SKITSYSTEM
(Distortion)

『Allday Hell』LP
(Farwell/Anomie)

split EP with AUDIO KOLLAPSE
(Epistrophy)

『Progression/Regression』CD
(Farwell/Havoc)

『Wolfpack Years』EP
(Farwell)

(最上)『Hellhound Warpig』とほぼ同時期にリリースされたLP。(上)同郷のスウェディッシュ・バンドSKITSYSTEMとのスプリットEPは1998年にリリースされた。とはいってもWOLFPACKは1曲しか収録されていない。リリース後、数週間ヨーロッパ・ツアーを行なっている。(中左)1999年リリースのWOLFPACK時代名盤中の名盤。ヨーロッパ盤のCDはNo Toleranceがリリース。翌年アメリカ盤をCrimes Against Humanityがリリース。さらに2001年にはブラジルのBombaredioがCDをリリース。DIYレベルにも関わらず世界中でプレスし、支持され続けている驚異的なアルバムだ。このアルバムでJonssonが脱退。後任にMickeを迎えての制作だった。リリース前にはDISFEARとヨーロッパ・ツアーを行ない、EXTINCTION OF MANKINDとはイングランド・ツアー、同じくEXTINCTION OF MANKINDとSKITSYSTEMとスウェーデン・ツアーをしている。『Allday Hell』リリース後はAXIOMとWARMACHINEとアメリカツアーを行なった。(中)WOLFBRIGADE改名後初の音源。挨拶代わりといったところか。(中右)2001年にリリースされたフルアルバム。ダーク・サウンドとメロディの融合したスタイルは独自のものだ。スウェーデンやノルウェーでのライヴや2002年ドイツのフェスティバル「Fuck The Commerce」に参加後メンバーチャンジを行なう。(左)最新EP。レビューページ参照。

DISGUST

BULLETS OF INFORMATION GIVE BIRTH TO ANTI-ESTABLISHMENTAL MIND PURELY ASSASSINATED

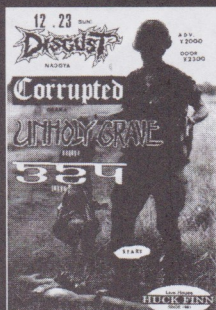
圧倒的な攻撃力と破壊力、聴き手を威圧するヘヴィネスとスピード。これこそDISGUSTを表現する上で必要不可欠な要素であり醍醐味だ。限られたステージ上のスペースと時間を最大限活かした迫力のステージングは、観た者全てがDISGUSTワールドに洗脳させられる程強力で、同じギグに出演するバンドさえものみ込んでしまうくらい強烈。音楽的に一言でいえばグラインドコアだが、世界的にみてもこれほど強力グラインドコア・バンドはそう多くないと断言できる。もしまだDISGUSTを体験していないのなら、是非ライヴ体験をしてほしい。間違いなくその迫力あるステージングにKOされることだろう。

INTERVIEW

── 1990年に結成されたとのことですが、DISGUSTを始めるまでの経緯を教えてください。

Masumi：えーっと、オレが一番古いですがDISGUSTを始める前にもバンドを組んで活動していたのですが、その後92〜3年頃DISGUSTに加入して…。その当時のメンバーは今は誰もいないし、とりあえずオレが古いので…そんな感じです。SatoshiもDISGUSTの前は別のバンドで活動していたし、94〜5年にSatoshiが加入。続いてAtsuが加入して最初の音源がDESPERATE CORRUPTIONとスプリットかな。デモはもっと前の作品で、その頃のメンバーは今はオレしかいません。

── どういったバンドに触発、影響を受けたのでしょうか？ レコードのビジュアル・イメージからはDISRUPTのようなクラストっぽさ、ライヴを含めサウンドからはグラインドコアを感じるのですが…。

Masumi：んー。オレはNAUSEA（NY）、HIATUSとか大好きだしDISRUPTも好きだし。昔聴いていたのは、やっぱりNAPALM DEATH、HERESYとか速ければ衝撃があった歳だったし、それは昔も今も変わっていないですね。DISGUSTは好きなサウンドをやりたいのでグラインド、クラストとか意識はしてないよ。

── 最近Relapseから編集盤をリリースしたHEMDALE、先程話に出てきた埼玉のDESPERATE CORRUPTIONとのスプリット盤、あとAGATHOCLESのトリビュート盤に参加してますが、どういった経緯で？

Masumi：当時HEMDALEのCraigと友達で、彼はVISCERAL PRODUCTIONSをやっていて、オレ達もHEMDALEは好きだし何か作品が残せれば良いなって。そんな感じでVISCERAL PRODUCTIONSからリリースさせてもらったんだ。DESPERATE CORRUPTIONのは最初のスプリット7"EPで、なんとなくお互いリリースしたいね、とそんな気軽な感じでリリースしてしまった7"EPっす。AGATHOCLESのトリビュートはすぐOKの返事をしたね。

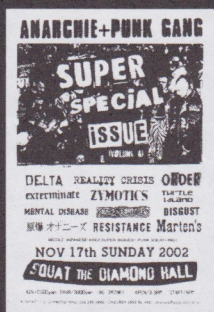
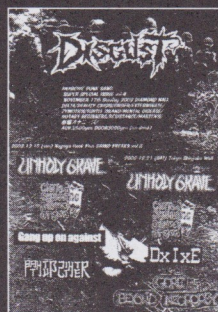
── 現体制になって初音源であり、また初の単独作である『Undermankind』についてエピソードがあったら教えて下さい。またどういった思いが込められているのですか？

Atsu：一つの作品として、出来るだけ「今」という時代を浮き彫りにしたかった。長い時代の流れの「今」という瞬間、世界で何が起こっていて、何が正しく、間違っているか、その答えに対する考え方、信念はそれぞれ皆異なる。その中で、我々が感じる世界観を一人でも多くの人に共感して欲しいという思いで作成したんだ。その思い

はタイトルにも反映されていて『Undermankind』は、「Undermine - 土台を壊す」という言葉と「Mankind - 人類」を融合させた言葉で、現在の人類は抜本的意識改革が必要ではないか? と訴えるキーワードとなっているんだ。作品全体を通して、人類の本来あるべき姿「平和への協調」と、現状とのギャップ「テクノロジー発達を有効活用出来ないどころか悪用している現実」を再認識してもらいたい。そうすれば、我々の日常生活においても、個人レベルで改善出来る事、つまり貢献出来る事が必ず見つかると思う。

── 自主で出そうと思ったのはなぜですか?
Masumi：DISGUSTなんかリリースしてくれるレーベルなんかないでしょー。

── インナーに使用している写真を見ていて思ったのですが、9.11の出来事に対する思いは大きいのでしょうか? ポリティカルな面を持つということは重要ですか?
Atsu：9.11については、想像を絶する悲劇だ。これは、人類の歴史に大きな傷を残すことになる。失われた多数の無実な命に心から追悼の意を表したい。この様なテロリズムは過去から繰り返されているが、平和を唱えるはずの宗教理念が屈折してしまう現実に大きな疑問を抱いている為、テーマにしたんだ。ポリティカルな面をもつことが重要なのではなく、我々が日々人類の一員として生活している中で、

HORRIBLE MUERTE DE UN HUMILDE CAMPESINO!!
12月21日 新宿 WALL
UNHOLY GRAVE
DISGUST 輪廻ノ蛇
GORE BEYOND NECROPSY D.I.E.
Clotted Symmetric Sexual Organ

疑問を抱いた事をテーマとしているだけだよ。

── ノイジー且つスピードがありながら、整合感のある演奏力がDISGUSTの特徴でもあると思うのですが、どうでしょう? また語りのようなヴォーカルが時折入るところも、DISGUSTならではと思いますが..。
Atsu：特に意識はしていない。我々の楽曲がその様に聴こえるのであれば、そう聴いてもらえればいいと思う。また、ヴォーカルとしては訴えたい事を歌詞にし、表現方法を自由なスタンスで考え、一番表現したい方法を選択しているだけだね。

── 嫌な質問かと思いますが、同名バンドがイギリスにいます。向こうに対して名前に対してクレームをつけたりしないのですか? 相手はライヴをやっていないですが、メンバー構成が凄いので知名度はありますよね?
Masumi：別に気にしてないよ。オレもUKのDISGUST好きだしね。

── 各メンバー本職はバンドではなく別にあると思いますが、バンドとして続けていくのに苦労はないですか? 年齢的に毎日バンドに時間を費やすわけにはいかないでしょうし...。

Masumi：苦労はハッキリ言ってしていますが、好きな事、楽しい事をやりたいしね。んー毎日はムリだけど、DISGUSTのオレを含めてメンバーは時間をみて集中してやっています。今、ニューアルバムの曲を作っています。なんとか今年中にはリリースしたいと思っていますので、よろしく!

── 地元のシーンについて教えてください。どういったバンドが活動してますか？また盛り上がりはどうでしょうか？ UNHOLY GRAVE等は全国区というか世界的に知られてますが。

Masumi：UNHOLY GRAVは音源もカッコイイけど、オレは絶対ライヴを観た方が楽しいと思っています。名古屋では「GRIND FREAKS」が定期的にあって、いつもDISGUSTもお世話になってます。毎回凄いメンツが出演してますよ。過去にCORRUPTED、CSSO、GORE BEYOND NECROPSYとか出演してて、とにかく毎回楽しみです。地元ではあとREALITY CRISIS、DELTAなど凄いバンドはいますよ。去年の名古屋の「PUNK & DESTROY」は最高の2日間で、凄いバンドばかりでしたねー。

── BORIS、大砲、原爆オナニーズ等、音楽スタイルの異なるバンドとも交流がありますが、彼等と一緒にライヴをやるメリットは何でしょうか？

Masumi：メリットとかより俺が観たいバンドでもあるし、スタイルが違っていても遠そうで近いような気がしますが…。でも、すばらしいバンドとの共演ができていつも感謝しています。

── 今まで外国勢ではEYEHATEGODとライヴを行なってますが、彼等はどうでしたか？ 飲みっぷりも凄いんですか？

Masumi：飲みっぷり？ 飲んでいたかなー。その日のオレはただEYEHATEGOD、SOILENT GREENのライヴを観て興奮してました。でもいつもビールを持っていたね。「EXTREME THE DOJO」は凄いバンドばかり呼んでくれるので観る側も楽しいし、これからも期待しています。

── 今後の予定ですが、DEEP SIXのオムニバスCDへ参加するようですね。その詳細について教えて下さい。また他にリリース予定はありますか？

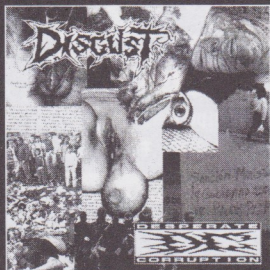
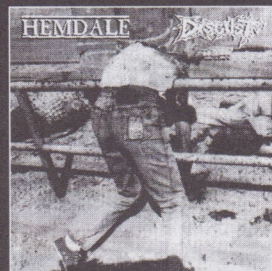
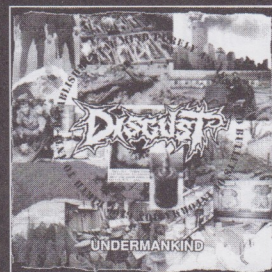
Masumi：そーですね。DEEP SIXから『Reality #5』に新曲を2曲と、ハードコアバンドのカヴァー集みたいなオムニバスに1曲参加します。『Reality』はシリーズ化をしていて過去にCORRUPTED、324とかが参加しているオムニバスです。『Reality #5』では他にどんなバンドが入ってくるかオレはまだ知りませんが、過去のバンドを見てもカッコイイバンドが沢山入っていますよ! ハードコアのカヴァー集もどんなバンドが参加するかまだわかりません。DISGUSTの選曲はCDを買ってくれればわかります。レコーディング終わりましたので、あとはリリースを待つのみです。

── お決まりパターンですが、何かメッセージをお願いします。

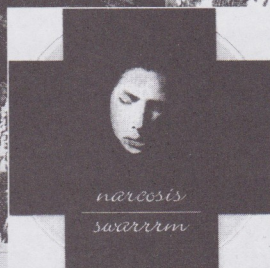
Masumi：これから曲でも作ります。ニューアルバムを早く出したいしね! ライヴも当然観に来て欲しいし、DISGUSTが出る企画なんかはかっこいいバンドばかりなのでよろしく。ライヴを観に来て感じるものも何かはあると思いますが、オレも好きなバンドはCDも聴くけど、ライヴの方がおもしろいなー。

Atsu：そう、絶対ライブの方が楽しいと思う。我々のライヴを絶対に見に来て下さい。

DISGUST E-mail: info@disgustweb.com Web Site: http//www.disgustweb.com

『Deforming Child』demo

split EP with DESPERATE CORRUPTION

split EP with HEMDALE
(Visceral Productions)

『Undermankind』CD
(Mask)

現時点での最新作『Undermankind』。グラインドコアの醍醐味である驚異的なブラストを多様した破壊的なスピード感と重低音は惚れぼれするほど威圧的で、あらゆるものをなぎ倒す程強力。現在のRelapse系グラインドコアとは違う、これぞ真正グラインドコア。必須アイテム!!!

グラインドコアを超越し、カオティック且つ独自な世界観を見せつけているSWARRRM。これほど破壊的で絶望感溢れるサウンドがかつて存在していただろうか。ハードコアが持つポジティヴ・シンキングと対比な位置にある気もするが、SWARRRMが吐き出す悲痛なまでの叫びと崩壊は、ステレオ・タイプな考え方を打ち消す程終末な世界を表現し、ハードコアが持つ攻撃性、という法則が従来とは違った解釈で突き進んでいる。

split CD with NARCOSIS
このインタビュー後にリリースされたジャケットが印象的な最新音源。詳しくはレビューページ参照。

INTERVIEW

── まず最初にSWARRRMを始めるまでの経緯を教えてください。またバンド名の由来も教えてください。
kapo：グラインドコアをやるために集まりました。

── 昨年、ヴォーカルのHatada氏が脱退しましたが、新ヴォーカリストは決まっているのですか？ メンバーが変わったことで、他のメンバーの意識も変わったりしましたか？ またメンバーが変わった経緯、現ヴォーカリストの経緯等を教えて下さい。
kapo：新ヴォーカルに186cmの巨人、岡Zが加入しました。先週、新編成でライブしました。SWARRRMのヴォーカル・スタイルはHatadaのスタイルではなく、僕の趣味全開なので、Hatadaも嫌になったんでしょう。岡Zはヴォーカル初めてなので、これしかできませんが、今後、覚醒するでしょう。僕ら3人は岡Zに惚れ込んでいるので、みんなにみてもらいたいです。

── どういったバンドに触発、影響を受けたのでしょうか？
kapo：DISCORDANSE AXISとBORN AGAINSTです。

── SWARRRMといえば世間的にはグラインドコアと括られていますけど、NAPALM DEATHやTERRORIZERといった所謂グラインドコアとは違っていると思います。どう思いますか？
kapo：そうですね、違うと思います。EARACHEのバンドとかは全然好きじゃないですね。あとデスメタルも苦手です。ブラックメタルは好きですけどね。SWARRRMにとってグラインドとはブラストビートの事であって、それ以外は自由だと考えます。だからグラインドであっても胸が熱くなる曲、切なくなる曲、幸福な気分になる曲とかも作っていきたいですね。

──あとカオティック云々と言われるケースもあります。前質問にあるグラインドコアとは違った音ですし。そういった部分では意識はありますか？
kapo：僕的には、カオティック＝プログレッシブと考えてます。緊張感は、演奏面でも歌にしても1番重要な課題にしてます。緊張感や危機感こそハードコアの醍醐味だと思ってるので、踊りやすいハードコア、のり

やすいハードコアにはあまり興味ないです。緊張感、危機感の追求こそSWARRRMの進む道だとは思ってます。カオティックというのは、その中の1つの要素ではあります。

――海外ではカオティック云々といわれるようなバンドは多い気もするのですが、日本ではあまり存在していないと思います。その分、SWARRRMにより注目が浴びていると思うのですが、どう思いますか?
kapo:今カオティックと言われてるHYDRA HEADのバンドとかには興味ないですね。CONVERGEやCANDIRIAとも一緒にやったけど面白くなかったですね。DILLINGER ESCAPE PLANはすごかったですね。MY LAIとかNEWBORNとか好きです。日本でもSCALANEとかの方が僕らより、はるかにプログレッシブですね。ただHYDRA HEAのバンドとかよりSWARRRMの方がハードコア、グラインドコアにこだわりは強いでしょうね。

――現時点では昨年リリースされたBLOODRED BACTERIAが一番新しい音源ですが、その1曲目でピアノを取り入れているのには驚きました。誰のアイデアなのでしょうか? どういった効果を狙ったのでしょうか?
kapo:CATHARSISの真似しました。狙いなんて無いですね、やってみたかっただけです。

――歌詞にどういった気持ち、意味が込められているのでしょうか?
kapo:憎悪と絶望。

――EDGE OF SPRITのようなニュースクール系や凶音のようなバンドとも交流がありますよね? 彼等のようなバンドとの交流というのは音楽的な興味からなのか、それとも気持ちや姿勢による合致からなのでしょうか?
kapo:気持ちや姿勢といった不確かな物を判断の基準にすることはないです。EDGE OF SPRITは大好きです、同郷の誇りです。凶音とか独自のスタイルを感じさせるバンド興味あります。スラッシュとかポスト・ハードコアとか流行が出来た事はアンダーグラウンドなシーンが拡大した証拠なんでしょうが、学生のサークル活動みたいでウザイです。

比較的最近リリースされたCD2種。左写真は、現FROM HELLのTsukasa氏在籍時のATOMIC FIREBALLとのスプリット。ただ激しいだけにとどまらずに、より深い世界を描写したかのようなスケールの大きい作品。右写真は昨年リリースされたドイツのBLOODRED BACTERIAとのスプリット。グラインドコアというカテゴリーで括った場合、両者の打ち出したサウンドは対称的なほど違う。BLOODRED BACTERIAは攻撃一辺倒な要素が多く盛り込まれているが、一方のSWARRRMはここでも独自性を引き出し、違いをまざまざと見せつけている。

split CD with ATOMIC FIREBALL (God Door)

split CD with BLOODRED BACTERIA (MCR)

――年齢的にもバンドに全ての時間を費やすことは難しいと思いますが、バンドを続けていく上での"力"となるものは何でしょうか?
kapo:メンバーどうしの思いやり。

――地元のシーンについて教えてください。また今注目しているバンドってありますか?
kapo:大阪は面白いと思いますよ。神戸は知りません。MUSE大好き。

――今年はいろいろとリリースが控えてますが、聴きどころは何でしょうか? またHG Factからフルアルバムのリリースもありますが、これを期にツアーをしたりしますか?
kapo:3月末に出るNARCOSISとのスプリットEPは、ex冨獄のSingenとHatadaのツインヴォーカルがすごいです。同じく3月に出るらしいRELAPSEの4wayスプリット『Japanese Assualt』ですが、SWARRRMは新曲4曲収録されてますが2001年春の録音です。かなりムカついてます。アルバム発売後に東京には行こうと思ってます。地方も呼ばれれば、行きますけどね、去年は北海道行きましたし。

――今後の目標、意気込み、メッセージをお願いします。
kapo:ニューアルバムは、関西を代表する3人のエンジニアと3つのスタジオで1年がかりで製作中です。アートワークはソルマニアの大野氏、元ハナタラシ、ゼニゲバ、VERMILION SUNSの竹谷氏によって製作中です。遅くとも5月には出ます。是非御一聴下さい。CHAOS & GRIND!!!

SWARRRM E-mail:kapo@dj8.so-net.ne.jp Web Site: http://www007.upp.so-net.ne.jp/swarrrm/

BATHTUB SHITTER

最近レコードの再発ラッシュによって日本はもちろんのこと、特に海外での知名度もアップしているBATHTUB SHITTER。抜群のセンスを持ち、独自のスタンスで活動を続けている。是非東京圏でもライヴが観てみたいバンドだ。このインタビュー機に、ライヴを体験し、彼等の世界を肌で感じてほしい。

INTERVIEW

── バンドを始めるまでの経緯を教えて下さい。

Henmarler：こんにちは、ヘンマラです。そうそう1996年の2月14日がBATHTUB SHITTERの結成日になるんやけど、EPIDEMIC CAUSEを辞めてグラインド・バンドを始めようとしてしてた杉山と俺が始めてあった日で、それにギターを加えた三人からスタートした日かな。この日の事はマジ覚えてんねん、この帰り道に当時の彼女のマンションの前通ったら窓に電気ついてたのにや、自分の家に帰っても、その日連絡なくてなぁチョコレートくれへんかってん(笑)。なんか三日後に貰ってんけど。…って質問にこたえてへんなぁ(笑)。

── 十分質問の答えになってるけど、キッツイなぁ(笑)。バンドやっている限り、この苦い思い出は消えないっすからね。海外のファンジンとかでもこのネタ話してるの？

Henmarler：いやいや、苦い言うより甘かったよ(笑)、単純にバレンタインデー忘れてたらしいねんって、十代のええ思いでなんよね俺的には…。多分喋るのんは初めて思うでネタちゃうし、音楽の話なんてした記憶なんてないからね。海外のインタビューでまともに、アホな日本人やから堪忍って感じで、毎日が適当よ、うわぁ携帯なってる…。ごめんアラームやねん、で。

──(笑)。…で、その思い出深い結成日後は？

Henmarler：そのチョコレートが甘くてさぁー、って言いたいとこなんやけどもね(笑)、まぁすぐにベースが決まってスタジオに入るんやけど曲もないから、みんなでTERRORIZERのアルバム全曲を完コピしようって話

になってやね。俺以外のメンバーは1週間程度で全曲コピーしよるし、TERRORIZERのヴォーカルラインって単調やんね。どうも覚えたくなかったから無理やり曲作りの話を進めて、4曲程できたからレコーディングしてデモテープを作って、話がまたチョコレートに戻るけど(笑)、その時の歌が「BROWN LOVE」って曲なんよ。で多分50本は作った思うんやけど、あまりの出来の悪さで20本しか作ってないって、現在は嘘ついとんねんけど幻の1stデモです。それからライブ活動し始めるんやけど、当時のメンバーって歳が結構離れていて、今後のことを考えて歳の若かった俺と杉山で同じ歳位のメンバーに変える事になって、曲作りしながらメンバーを捜していて97年の後半に2ndデモを作ったんよね、この辺から頻繁にベアーズなんかを中心にライヴ活動が盛んになってきて、翌年にMCRの方からリリースの話をもらってDUD MANとのスプリット7"EPを出し、99年にTAG RAG主催の『ハードコア マラソン2』に曲を提供して、この年の後半にT.V.G.RECORDSから初単独作を限定1200枚プレスで出したんよね、この頃の話はほとんど覚えてないんよね、メンバーもギターが落ち着かずライヴや企画なんかしたり、2ndデモもトータルで5000本以上は売ったんやけど、なんかただひたすらガムシャラにやってた感じかな若かったよね、ごめん(笑)。

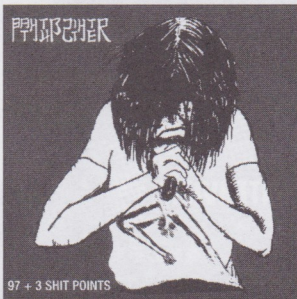
── ガムシャラにやって覚えてないって格好イイと思いますよ。ある意味、パンクな感じもします。

Henmarler：うーん、パンク？ …いやいや実はね俺もバスタブってパンクちゃうかなって思っててん、いや笑うなって(笑)。俺が言うてんのはファッションや音楽って意味じゃないねんって、うちらの音ってメタルっぽい部分もあるやんか、でもPLASTIC-BOMBってドイツの中核に位置するパンクのコミニィティーがあんねんけどね、まぁドイツ語やったから俺も完全に理解してる訳やないんやけども、そこが発行してるファンジンのパンクロックついてのコラムがあって、BATHTUB SHITTERもまたパンクバンドのひとつや、って書かれてるの見て素直に嬉しかったんよね、広い意味でのパンクって音楽のジャンルの中で俺等がギリギリの境界線って感じで載ってて、ヤッホゥって感じ(笑)。

── つまり、例えば先程言ってたTERRORIZERなんか良い例だと思うんですよ。音的にはメタル寄りなのに一般的にはパンク側のバンドとして認知されている。そういう意味でBATHTUB SHITTERも同じ空気を感じますからね。ドイツのPLASTIC-BOMBってのも、そういう事が言いたかったんじゃないですかね？

Henmarler：きっとそうや思うし、思いたいよね。MORBID ANGELとかやとメタルになんねやろうし、メタルサイドの人間とも実際には仲良いねんけど、アメリカから来たメロディク・パンクのNOTHING COOLとかなんかとは普通に仲良しやしね(笑)。さすがに日本全国を周るのはキツイやろ、グラインドとメロコアでさぁ、だから新神楽のクルーにはメッサ感謝してるし、俺達は一番問題なさそうなメロ系以外も出演するNOTHING COOLの滋賀公演にだけ友情出演さしてもらうことになってるんやけどね、普通のグラインダーなら理解しずらい関係やろね。グラインドって言うてもゴア、クラスト、デス、カオティク、ノイズ、ポルノ系とかに分かれるんやろけど、BATHTUB SHITTERがクラストよりのグラインドに分類されてるのには正直笑うね、違うやろって！ 否定はせんけど音は絶対ちゃうし、かと言うてこの前は日本のメタルゴッドやってアメリカのキッズからメールがあって、普段は全てのメールに返事なん

『Mark A Muck』
(Sounds Of Betrayal)
インタビュー中でメンバー自身が語っているように、グラインドコアの魅力を損なわずに次のステージへと向かうBATHTUB SHITTERの前向きな姿が反映されたEP。

『One Fun』
(Power It Up)
ライヴ・テイクを含む全6曲収録。荒々しいグラインドコアで、クラスト的ジャケットを含め少々BATHTUB SHITTERの持つイメージとは違ったテイストを感じとれる。

『97+3 Shit Points』
(Power It Up)
過去に発表された音源収録の昨年リリースされたヨーロッパ盤EP。ぶっ壊れ具合が最高なグラインドコア!!! 詳しくはレビューページ参照。

か答える時間なんてないんやけど、なんかこの子のファンレターが凄く印象的で、この子にはバスタブはパンク・バンドやって長い時間かけて理解してもらった(笑)。ごめん話が飛んでってへんか俺って。うぉー煙草逆に火つけてもうたやんかぁ、臭いわぁ(笑)。

── ようするに、メタリックな音を評価した上で、そういう気持ちや姿勢の部分も評価しているってことですよ。僕はそういうスタンスというか、そういうバンド好きだしね。具体的にはどんなバンドに影響を受けてるの?

Henmarler:ゴホォゴホッ、煙が…。いや本当にエエ事言うよね、涙でてきたも煙のせいちゃうでほんま。今現在は誰かに影響を受けてるとは思わんけど、結成当初はTERRORIZERやろうね。あとSxOxB、EXTREME NOISE TERRORとか初期EARACHEの頃のバンドになると思うよ、この頃の俺はグラインドいうよりMELT BANANA、ZENIGEVA、DUBWARとか好きやったしね。曲作りに関して言うなら杉山が若い頃に影響を受けてきた中期スラッシュメタル、初期グラインド、ファストやろね80年代後半の。俺はリアルでこの時代を知らんし、既に中高の頃ってPANTERAやNIRVANA、OFFSPRINGなんかが流行ってた時代やったし、TERRORIZERを聞かされた時は素直にかっこいい思ったよ。俺がバスタブ始めた頃は日本でメロコア、メロデス、ゴシックなんかが流行りかけた時代やったし、俺自身ガキやったからいろいろハマってたし、高校生の時代は友達がクラブでDJしてたから、最初は週二回はナンパ目的で遊びにいってて、しだいにレゲエとかヒップホップとかよう聴いてたわ。今でもレゲエはルーツもダブもダンスホールも大好きやで。今は新しいベースに黒木が加入して俺達が知らん後の音楽をバスタブに運んで来てくれると嬉しいねんけど…。RELAPSEグラインドやブルデ

bathtub shitter

スとかカオティク、エモ系とか聞かしな俺…。皆の影響受けた音楽が上手いことまとまっていけば、ええ曲になるんちゃうかな。でも最近気がついたんやけどね、むちゃむちゃ厳ついパンクロックって言うか、俺も何でデス声なんやろってって自問自答してみろって、アメリカの友達に言われたわけよ。歌詞の中に普通の声で歌ったら恥ずかしいくらいの感情を詰め込んでるからね、愛よ愛、俺なりの。だからヘヴィになんねんて。これは俺自身なんやけど、俺はグラインドそない好きちゃうねんやぁ、歌詞がないバンドは論外やし、ポリティカル言いながら人と同じ事ばっか歌ってるファションググラインドとか、いまさらグラインドに初期衝動なんて求めるがおかしいねんって、NAPALM DEATHのコピー? AxCxのコピー? なんて感じやしね。高校生の頃MELT BANANAに出会って、なんじゃコラーって思った。アレは俺の中で最高の日やったし忘れられへん、この場をかりて縣さんにメッセージを、ごぶさたしてます、大好きですハート、ってゴメンちゃい、話を戻すけど俺は次の世代にはブラストを超える技を編み出して欲しいって事なんよねキッズども頑張れ、ってな感じです、嘘ついてた、グラインドも好きですよ。

── キッズども頑張れじゃなくて、BATHTUB SHITTERが次世代の音をやっちゃってくださいよ(笑)。安易な発想かもしれないけど、ダンスホール・レゲエやダブとかのルーツを活かしてね。

Henmarler:(笑)俺ももうええ歳やで。嘘よ永遠の19歳ヘンマラやから(爆笑)。結構チャレンジしてるはずやけどな曲作りに関して言うたら、まぁライヴ見てくれたらバスタブが他のグラインド・バンドとちゃうってのは理解してもらえるやろけどね。まぁ最近リリースしてる作品自体が俺達にしたら常に過去やしね。現在の俺達のサウンドに一番近いんってキプロス共和国からリリースした5枚目のシングルやわ。即効初回プレスなくなったから入手困難や思うけど、この『FAST』がリリースされる頃にはセカンドプレスが出来てると思うので聞いてもらえると嬉しいよね、結成当初に俺自身がBATHTUB SHITTERで目指してたサウンドはこのEPに詰まってるから、ヘンマラ推薦盤よ、うちら結構海外リリースが続いてるから国内で購入しづらいと思うけど頑張って捜してなぁ。『Mark A Muck』て赤のジャケのEPあんねんけど、あれのB面に収録してるタイトル曲は8分くらいはあんねん。グラインド系で8分は珍しいやろ? スラッジコアとは全然ちゃうし。前半は、ひたすらループしてるんやけどね。杉山の一番のお気に入りの佳作らしいで、快作じゃないらしいけど(笑)。普段からグラインド/スラッジばかり聴いてる子には面白いと思うよ。でその質問に答えるとするなら、俺は家で聴く曲とバスタブでやりたい音楽が違うのね、バスタブでは歌詞に集中したいし、ヘヴィな音作りに

は挑戦したいしね。俺はヴォーカリストやから歌になるんよね曲よりも、まぁ冷静に考えて曲の最初から最後まで歌い通してるやんか俺って。楽器隊がエエ事やってんのに消してる部分あるよね、まぁ俺的には他のグラインド・バンドでヴォーカルはできないと思うよ、単調すぎて飽きるやろうし。一人でツインヴォーカルできるし踊れるしね、きっと俺はバスタブの事が大好きなんよね、こんなバンドおったら面白いのにってのを演じてると言うか、幸せなんよ。うちのバンドって他のグラインドよりポップに聞こえたりする思うけど、曲作りの段階が違うちゃうかな？ 他にグラインド・バンドをやった事ないからなんとも言われへんけど…。まぁ質問に上手いこと答えてないからゴメンなんやけどね。グラインド自体が音楽の歴史の中で異端であり革命やったと思うのよね、十数年経ってもグラインド・シーン言うのはNAPALM DEAHやらAxCxのコピバンみたいな連中がぎょうさんおるやんか、今でも。ハードコア・シーンでグラインドが発生したように、今度はグラインド・シーンの中でも革命は起こりえる事や思うのね俺は。

── そういう意味でもBATHTUB SHITTERには期待してますから、マジで！ ところで、音源とリリースに関してはいろいろ予定されてますが、今後のライヴ活動の予定は？ ドイツの『FUCK THE COMMRECE』に出演するって聞きましたが。

Henmarler：さすが『FAST』ってだけのことはありますね、情報も『FAST』だねぇ（笑）。今年開催されるの『FUCK THE COMMRECE』の方にはオファーあったので行きますよ、現時点では細かい詳細出てないのでバスタブがいつ演奏するか未定なんやけどね。DISMEMBERやENTOMBEDとか豪華メンツなのでガッツーンとやっつけてきますよ。あと予定としては夏にもう一度ヨーロッパに飛んで、秋にアメリカのフェスティバルに行く予定にしてるんやけど、www.bathtubshitter.comでチェックしてくれると助かりますわぁ。ここ最近は地元大阪でのライヴやってないから、見れる機会に是非遊びに来てやぁ。

BATHTUB SHITTER

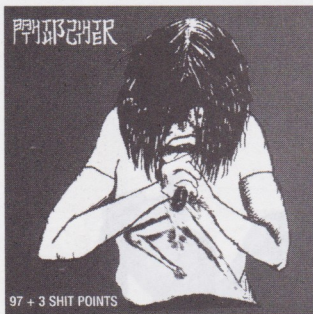
E-mail: info@bathtubshitter.com
Web Site: http://www.bathtubshitter.com

ハードコアはライヴが命、ごもっともな意見だし反論はないだろう。ライヴハウスへ向かう際の期待にはじまり、会場へ足を踏み入れた際の緊張感、そして爆音開始と共に会場を照らしていたライトが消えて場内では興奮して絶叫、そして暴れ出す。つまりハードコアを語る上で不可欠なアティチュードは、このときだけは勢いだけで十分だ。バンドが何を考え、そのために何をしているのか、会場で観ている者ならわかっているはずだから。求めるものはただひとつ、格好良いステージングを望んでいるだけなのだ。ウンチクなんて必要ない。また家でレコードを聴いているだけでは、ハードコアの魅力なんてわかるわけがない。

ただしライヴに及ばなくても、ライヴに限りなく近い爆音が自宅で気軽に聴けて楽しめる、なお且つバンドのポリシーやアティチュードが手にとってわかるレコードだってあるのは事実だ。レコードのリリースは日々膨大なので全てを掲載することはできないが、ここではそんな激しくリスナーを圧倒するレコードの一部を紹介する。ただし世の中には大満足なレコードもあれば退屈なレコードも存在するので、本誌としてはポリシーとまでは言わないが、大満足なレコードのみを紹介することにしている。メジャー誌のように、どんなに退屈なレコードであっても会社の利害関係から全てを掲載しなくてはならない、なんて状況になると、醜い文章になりかねない。その醜い文章を読んで、読者に不快感を与えるのもどうかと思うし、だいたい嫌いなレコードを本誌に掲載なんかしたくない。しかし誤解しないでほしいのはリリースのタイミング的に掲載を見送ったレコードもあるし、金銭的にあれもこれも入手できるわけではないので掲載を逃したレコード等まだまだ素晴しいレコードはあるということ。今年リリースされたDISCHARGEのヘヴィウエイトな1st LPや、長年探し求めていたレコードが欲しいときもあるし、金銭面でもなかなか全てを掲載するなんてことは難しいのだ。

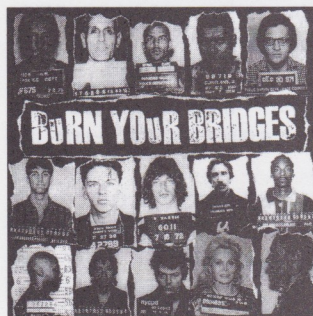
大切なのは自分の耳で確かめること。本誌のようなファンジンやレコードショップで売られているレコードに寄せたコメントも単なる一意見であり、感想に過ぎないので鵜呑みにしないでほしい。あくまでも参考程度に。またレコードショップでグラインドコアやクラスト等々区切られているケースは多いが、売り手が管理しやすいという理由もあるかもしれないが、買い手側が欲しいレコードを簡単に見つけやすくするために分けているのだ。

でもハードコアは、何だかんだ言ったってやっぱりライヴで潜在能力と魅力が発揮されるのだ。巻頭ページを飾っているGUILLOTINE TERRORの企画ギグ「Street Anarchism」を例にとってみても毎回様々な音楽スタイルのバンドが出演するので、あらたな発見をするにはうってつけ。いろいろ聴いて、体で感じ取ってほしい。

※既に売り切れているレコードもあるかもしれません。あらかじめご了承下さい。またレーベル住所は念のためそれぞれ確認してください。

BATHTUB SHITTER
『97+3 Shit Points』7"EP
Power It Up(Postfach 1114, 38156 Vechelde, Germany)

海外における知名度の高さには驚かされるが、音楽としての出来はもちろんのこと、ハードコア・バンドとしての恐ろしいまでの迫力や魅力が打ち出せれているからこその結果だと思う。この7"EPは97年のデモ音源と、DUDMANとのスプリット盤の曲を収録。頭のてっぺんから声を発しているかのようなANAL CUNTばりの発狂ボイスと、地を這うという形容が似つかわしいド迫力な重低音ボイスが終始暴れまわる。さらに破壊力のあるつんのめりそうなグラインド・サウンドとのバランスが絶妙。精度の高い真正グラインドコア路線をいくスタイルなのでそれだけで買い。今後の展開にも十分期待できるほど魅力あるバンドだ。

BLEED FOR PAIN
『邯鄲の夢』LP
Earthbound Records(2A 1-15-8 Hatagaya, Shibuya-ku, Tokyo 151-0072 Japan)

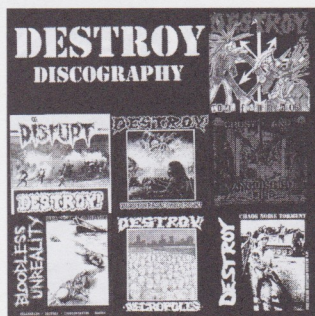
昨年末、D.S.-13のジャパンツアーのサポートにより一躍全国区なバンドへと昇格した感が強く、この1stLPで聴ける廃虚感が漂いつつ危機迫るハードコア・サウンドの感想は、独創的な音であるという一言に尽きる。基本的には日本語を駆使した日本特有のハードコアであることに間違いはないが、しかしながら90年代のスカンジナビア・ブラックメタルや80年代のジャーマンメタルにも似たメロディックなフレーズを聴きとれることができ、非常に興味深い。オリジナルなサウンドを生み出した要因は、奥ゆかしささえ感じるバックボーンの深さによるところが大きいと思う。ハードコアは良い意味で進化していると再認識。必須アイテム!!!

BURN YOUR BRIDGES
LP
Deep Six Records(P.O.Box 6911, Burbank, CA 91510 USA)

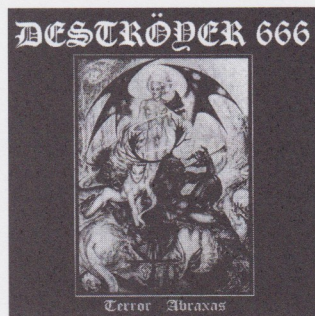
パワーヴァイオレンス・ゴッドSPAZZのChrisとLACK ON INTERESTのBobによる夢の共演!!! この2人がタッグチームを組むだけでも購買意欲をそそるグレイトなレコード。さらに、即ジャケ買いしそうなアートワークもハイセンスすぎる!!! ファストコアのような軽快さを重視した疾走ではなく、上記両バンドの音を組み合わせて、ドッシリと構えたヘヴィ級の重みで強引に突進。また全体のバランスを崩さない程度に起伏のある曲展開は、これもまさにパワーヴァイオレンスそのもの。90年代に巻き起こったブームが去ってパワーヴァイオレンスは過去の代物とされているけど、これを聴く限り現在進行形だと感じた。

DEFECTOR
『パンク・システム・デストロイ』7"EP
Crust War
(Distributed by MCR Company:157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

ノイズ性や暴力性の極めて高いサウンドを全世界に向けて発信している大阪Crust Warより、ファンジンに付録されていたEPに続くDEFECTORの2作目。危険極まりない騒音や雑音の域に達するほど喧しくてうるさいサウンドは、永遠に続くノイズの壁で覆われて、その壁の向こう側を爆走する音楽はレベルが高く格好良い。またスピーカーの前から流れ出た破壊的なサウンドは、あらゆるモノをぶち壊すほど重厚なブルータル・ハードコアで強力だ。危険度が高い容赦ないアタックにより、聴く者全てがノックダウンすることだろう。あらゆる面が極端な方向へと向かい、ゆえに正真正銘ハードコアにカテゴリーされるべきサウンドだ。

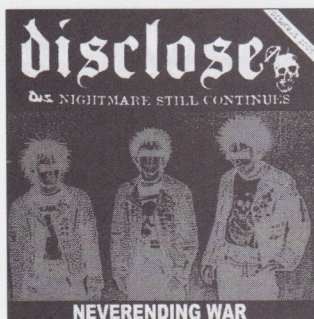
DESTROY
『Discography』CD
Havoc Records (P.O.Box 8585, Minneapolis, MN 55408 USA)

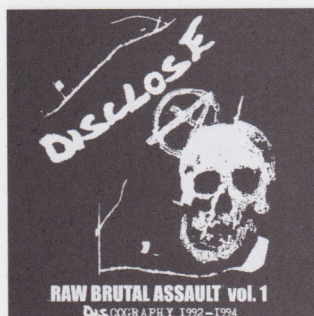
ご存知Felix Von HavocがCODE13以前に活動させていたバンドの全音源集。CODE13と違ってグラインドコア色は感じさせず、EXTREME NOISE TERROR以降のダーティーなクラストコアからの影響が色濃く出ている。Felix以外にもヴォーカストが存在したデュアル・ヴォーカル時期もあるなど、いろいろな面でクラストの王道をいくスタイルで、また同時期に活動していたDISRUPT辺りとも音楽的に共通点は多い。かつてのライヴ・フライヤーも多数掲載されており、今考えると意外なバンドとの共演も発見、非常に興味深い。Felixの音楽的趣向の変化が、良い意味で時代の流れを感じさせる。

DESTROYER 666
『Terror Abraxas』CD
Iron Pegasus Records (P.O.Box 1462, 56804 Cochem, Mosel, Germany)

元々はオーストラリアのブラックメタル・ゴッドBESTIAL WARLUSTのKeithのプロジェクトとしてスタートさせた、本誌ではお馴染み(?)のオーストラリアのアンチクリスチャン最新作。基本路線は前作と同様、90年代グラインドコアやデスメタルを通過せずに、オーストラリア特有のオールドスクール・ブラックメタルの通称ウォーブラックなサウンドで爆走する。時折、北欧ヴァイキングな雰囲気を醸し出してはいるけど、ライヴにおける迫力はもちろんのこと、全体的には攻撃一辺倒な姿勢を押し出しグレイト。アンダーグラウンド・メタルだけでなく、パンク・ハードコア側からも熱い支持を受けるのも頷けるほど怒りに溢れている。

DESTRUCCION / NAILBITER
split 12"EP

何とも言えぬショボいジャケットだから、逆に思わず手にとってしまう人も多いと思うけど、期待を裏切らないほどロウ・パンクで最高だ。まずA面のロンドン在住ブラジリアンNAILBITERは、DISCHARGE風のメタリックなD-beat要素を取り入れつつ、ノイジーなANTI CIMEXを思わせクールなのだ。私的には後者よりお気に入り。どこかで聴いたことのあるリフも飛び出すけど、よしとしよう。一方のDESTRUCCIONはスペインの大注目ポンコツD-beatハードコア。独特の雰囲気が醸し出されるスペイン語によるヴォーカルとの絡みもスリリングで、ある意味これぞパンク、といえるほどのチープ具合がナイス。

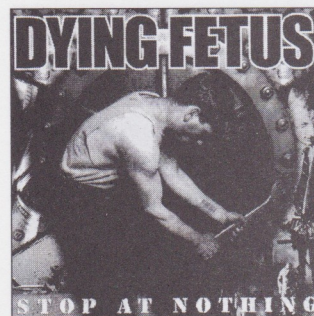
DISASTER
『La Casa De La Caca』7"EP
Sounds Of Betrayat (Box 7092, 200 42 Malmo, Sweden)

スウェディッシュ・グラインドコア・シーンから送り出された大注目の2人組による1st。最小編成ではあるけど、マニアを唸らせるだけの迫力と重厚さに震える。機械を駆使し、人間のレンジを越えたスピードはある意味反則技に近く、この迫力をライヴで再現するのは不可能ではないかと心配させられるが、それ以前に曲の良さが目につくのでOKとしてしまう自分は甘いでしょうか? 細かく砕け散ったノイズを全体にばらまいてザラついた感触を与え、強烈なエッジによりインパクトを出している。そういった点ではNASUMにも似た騒音性が魅力ともいえるのだ。ポリティカルな姿勢丸出しな雰囲気も二重丸。今後に期待大なバンド!!!

DISCLOSE
『Neverending War』7"EP
Dan-Doh Records("K-Club"Honmachi 2-1-26, Kochi 780-0870 Japan)

世界中の"DIS"サウンドの中核であり発火点でもある、言わずと知れた世界のDISCLOSE。昨年Dan-Dohよりリリースされた『Apocalypse Of Death』に続く今年初の最新音源。とやかく説明する必要もないでしょう。初期に比べるとメタリックな部分が増え、硬質に鋭く突き刺さる強力なD-beatに誰もが即死しないわけがないのだ。日本人として誇りに思えるほど素晴らしく、そして格好良い。ジャケットからして欲しくならない人なんていないでしょう。高知が産んだ史上最強バンドで、ライヴで"絵"になるバンドってそうはいない。はっきり言って褒め言葉しか浮かんでこない、これが正直な気持ち。

DISCLOSE
『Raw Brutal Assault vol.1』CD
Dan-Doh Records("K-Club"Honmachi 2-1-26, Kochi 780-0870 Japan)

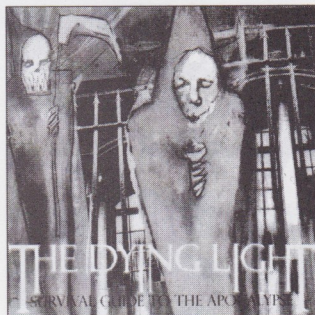
続く最新リリースも同じくDan-Dohから。コレがとにかく凄い!!! 広告や噂で知っていた人もいると思うけど、超入手困難なデモを含む初期音源集。本誌締め切り(?)直前に入手したけど、コレを紹介せずにはいられないでしょう。見ているだけでも興奮するブックレットをパッケージングし、75曲(!!!)も収録した超豪華2枚組にもかかわらず二千円というお手頃さ。世界中のDISCLOSEファンはよだれモンのハイパーグレイトCD!!! 以前Your Own Jailerからリリースされた『No More Pain』LPも感動したけど、この質と量と満足度は比にならない。売り切れてから後悔しないように即ゲット!!!

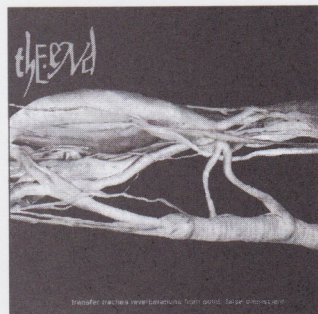
DUMBSTRUCK / Y
split 7"EP
Thought Crime(Boxhagener Str.22, 10245 Berlin, Germany)

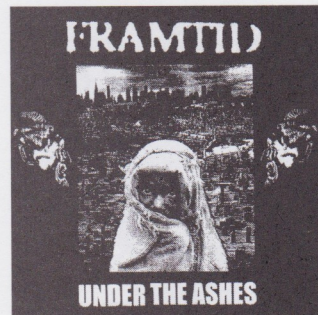
御存知RIPCORDのメンバー含むUKベテラン・スラッシャーによる久しぶりの音源は、ドイツの発狂ブルータル・パワーヴァイオレンスとのスプリットEP。前者DUMBTRUCK、良い意味で落ち着きがある80年代のサウンドと適度なスピード感を持ち合わせた大人なスラッシュ。一方のYは、以前聴いたときよりも唐突さが減り、直線的なファストコアな印象が強くなった感もある。最も勢いのあった頃のCAPITALIST CASUALTIES的なパワーヴァイオレンスというのが妥当かな。曖昧かもしれないが、ドイツ産パワーヴァイオレンスらしい音とも言える。しかし個人的にはフェイドアウトはいただけない。

DYING FETUS
『Stop At Nothing』CD
Ritual Records
(Ikebukuro Wakabayashi Bldg 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku, Tokyo 171-0031 JAPAN)

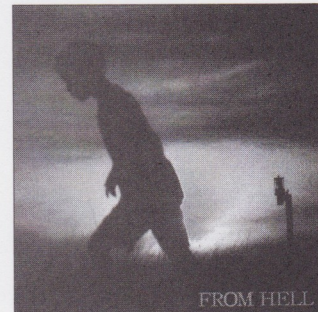
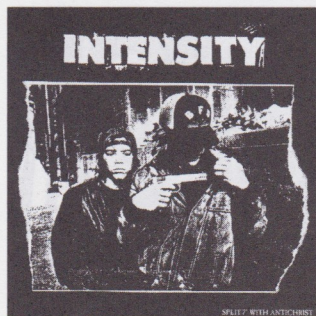
所謂ニュースクールやデスコア同様のグルーヴ感やモッシュパートの導入により、デスメタル系の枠を大きくはみ出して各方面から高評価を得ている大人気DYING FETUS。単純にスロー～ミッドテンポだけを行き来するのではなく、グラインドコア級の高速ブラストビートを所々組み込む等変化をつけている。リズムチェンジが激しく、多くのリフが繰り出されるため後期DARK ANGELを思い起こしてしまったが(私だけか?)、CRYPTOPSYのような隙間のない重厚グライディングデスに終始圧倒される。日本盤には、野獣ボイスによるNEXT STEP UPのブルータル・ラッピン・ソングを収録。しかも大阪でのライヴ!!!

THE DYING LIGHT
『Survival Guide To The Apocalypse』CD
Ritual Records
(Ikebukuro Wakabayashi Bldg 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku, Tokyo 171-0031 JAPAN)

単刀直入に言ってエクセレント!!! HEMLOCKやCATTLE PRESSで活躍した90年代地下シーンの強者が結集し、80年代のユーロなブラック・スラッシュの魅力を存分に感じさせるほどブラックな地下メタルを打ち出した。SLAYERを彷彿させるハイトーンなシャウトを時折聴かせながら全体的にはBATHORY以降のブラックメタル風の邪悪なヴォーカル、80年代の良い時代を思わせる格好良いリフとギター中心に疾走するリズム、ダーティーな世界観、個性的且つグレイトなジャケット、トレイにあるコラージュ写真等々全て良いぞ!!! DESTROYER 666に匹敵する程ブラック・スラッシュの理想形!!!

THE END
『Transfer Trachea Reverberations from Point:False Omniscient』CD
Ritual Records
(Ikebukuro Wakabayashi Bldg 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku, Tokyo 171-0031 JAPAN)

悲痛な叫びと破壊とが共存し、複雑な展開によって聴き手を混乱の世界へ陥れる1st。メロディやリフといった従来の音楽に必要なものを一切排除し、感性の部分だけで構築したかのような奇怪な曲が続き、そのため不快感さえ生まれるほど病的なリズムは難解且つ複雑だ。正直ここまでくるとハードコアという概念では通用せず、もはや前衛音楽またはフリーミュージックの域に達しているほど芸術性に満ちている。あえていえばカオティック・ハードコアということになるのだろうが、音楽として破壊を極めるとここまで非人間的な音楽になるのか、と考えさせられた。そういった意味ではハードコアを含めた地下音楽の極みともいえる。究極で極限!!!

FRAMTID
『Under The Ashes』12"EP
Crust War
(Distributed by MCR Company:157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

クラスト好きを自称するなら、知らない者はいないとはっきりと断言できる大阪代表クラスティーズで、本作は待望の12インチ。スカンジナビア流D-beatが大阪の地で見事に再生し、本拠地のバンドを凌ぐ勢いはノイジーで熱く恐ろしいほど音で圧倒する。その勢いもさることながら、楽曲面での良さが光っているからこそより激しさが増すのだと思う。技術や金銭的な支えではなく、音楽に取り組む姿勢やこれらハードコアに対する想いがどれだけ強いのかが重要なのだ。一部の偽パンクスが戦争はリアリティがないと一時期言っていたが、ここで聴ける言葉にはたしてリアリティがないと言えるのか。全てが危機迫っている、全てが本気モード全開!!!

FROM HELL
CD
Ritual Records
(Ikebukuro Wakabayashi Bldg 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku, Tokyo 171-0031 JAPAN)

バンド名からしてHELLCHILDの影がちらつくFROM HELL待望のデビュー作。ヘルチャ好きにとってみれば、どのような形にしろあのメンツが復活したのだから狂喜モノ。後期ヘルチャを彷彿させながら、一歩踏み込んだうねるようなスケールの大きいサウンドは、現在の地下音楽シーンの中では異色な存在でありながらオリジナリティーに溢れている。元ヘルチャのYasuo氏、オリジナルメンバーのNaito氏、TOKYO YANKEESのNori氏が放つ最凶ヘヴィサウンドと、Tsukasa氏の野獣ボイスとの絡みはヘルチャよりも凄みを増した。速いハードコアではないが、同様の空気を感じるのは自分だけではないはずだ。

INTENSITY / ANTICHRIST
split 7"EP
Trujaca Fala(P.O.Box 13, 81-806 Sopot 6, Poland)

現在のスウェーデン・シーンの中でもトップクラスの勢いがある御存知INTENSITY。ユースクルー系スラッシュ・ハードコアのライヴ感あるスピードにウエイトを置き、HIS HERO IS GONE以降の哀愁あるメロディ、または北欧メロディック・デスメタルやニュースクール・ハードコア、それらを見事で融合させた感覚は新鮮だ。まだまだ勢いは増すばかり。そんなグレイトなバンドの裏面はポーランドのANTICHRIST。デスメタル的なダウンチューニングを施したヘヴィハードコアで、強力な音はまさに鈍器のような重さ。前者からメロディの部分を排除したような感じで、恐ろしいほどの音圧に惑わされてしまうほど威圧的!

KUNGFU RICK
『Coming To an End』LP
625(P.O.Box 423413, San Francisco, CA 94142-3413, USA)

いきなり緩急つけた爆音で猛突進する爆裂作。語尾を気持ち少し上げて限界域でシャウトするヴォーカルや、スローダウンしたヘヴィ・パートからメロディックなファスト・パートへ一気に飛ばし、一連のニュースクール・ハードコア的な印象を与える部分を所々取り入れている。物凄い重圧で轟音に凄みが増す。全体の雰囲気としては、起伏の激しい曲展開と、ダークなグラインド・サウンドと発狂ボイスの絡みからパワーヴァイオレンス全盛期に多かったタイプのようにも感じられ、以前よりもハードコア色が濃くなったと思う。でも一概にパワーヴァイオレンスだとかグラインドコアだとか形容できない個性派ハードコア。しかしどうやら最終作らしい。

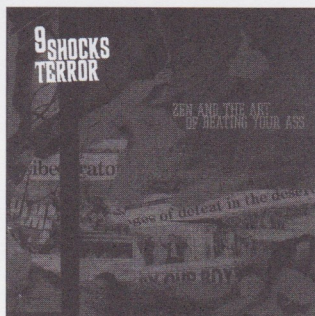
L'AMICO DI MARTUCCI
7"EP
Agipunk
(Distributed by MCR Company:157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

OHUZAZUのメンバーによって結成されたというイタリアのグレイト・ハードコア。下記バンドとは対象的に、明るくそして軽快に突っ走るのが魅力的だ。軽さは錯角かもしれないが、ここで使われる言語はハードコアで不可欠なスピードをより引き立て、80年代初期〜中期のハードコア的な雰囲気を漂わせる要因になり、総合的に軽く聴こえてしまうのかも。それがある意味イタリア的なのかもしれないが、シンプルに突き進むハードコアはイギリスや他のヨーロッパではあまり聴けないと思う。良い意味でのチープさがL'AMICO DI MARTUCCIの魅力であり、また言語ひとつで曲全体の雰囲気を変えてしまうことにも気付かされる。

NASUM
『Helvete』CD
Ritual Records
(Ikebukuro Wakabayashi Bldg 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku, Tokyo 171-0031 JAPAN)

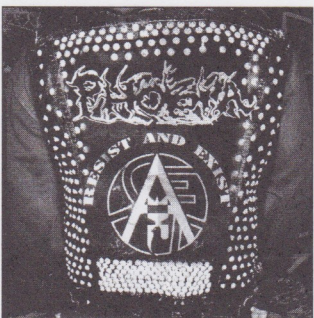
在籍メンバーがKRIGSHOTに参加していることでも有名な、スウェーデン最強グラインドコアの3rdアルバム。グラインドコアという聴いてそのままのイメージだけでなく、KRIGSHOTに近いキャラクターイメージも明確に示しているように思う。以前はオリジナリティをあまり感じさせないと思っていたNASUMのサウンドは、今こうして新作を聴いてみると、スウェーデン特有のジャリジャリとしたノイズ感とトルクのある加速感は、一発でNASUMと判るほどオリジナリティあるグラインドコアに変貌していたことに気付く。NASUMのオリジナルメンバーやNAPALM DEATHのShane Embury等がゲスト参加。

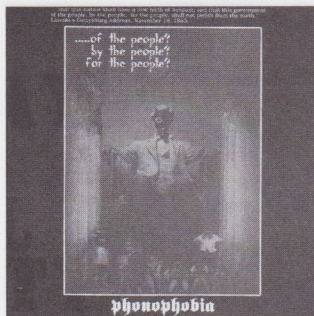
9 SHOCKS TERROR
『Zen and The Art of Beating Your Ass』CD
Havoc Records(P.O.Box 8585, Minneapolis, MN 55408 USA)

日本のハードコアが好きなのはバンド名から察することができるだろう。LIP CREAMから頂戴したのは明白。むろん音においてもジャパコアの影響下にアリ。しかしながら基本的にはアメリカ特有のカラッとしたハードコアで、むやみにスピードに頼らず、シンプルながらも印象に残るフレーズのオンパレード。1曲目から心地よいほど。また一見すると1stアルバムの単なるCD化と思われるけど、侮るなかれ、実は数多くリリースされたEPやコンピレーション盤に提供した曲を惜し気もなくぶち込んだ全34曲収録のディスコグラフィ的CDなのだ。まさに今が旬なバンド。それだけでも買う価値アリなCDで、日本人としては聴いておきたい作品。

OXIDISED RAZOR
『...Carne...Sangre...』CD
Obliteration Records(3-41-16 Sumida, Sumida-ku, Tokyo 131-0031 Japan)

REGENERACIONが発展したメキシコ最凶にして超下劣な屍体系ゴアグラインドOXIDISED RAZORの新作。ポルノ系を思わせる綺麗な女性との対比によって一段と下劣さを増したジャケット通り、死臭漂うゴアグラインドのダーティーワールドが初っぱなから炸裂し粉砕。元々REGENERACION自体、多少なりともハードコア色が感じられたが、このバンドに発展してもハードコアなテイストを感じないわけでもない。ただし、豚が苦しんで鳴き喚くかのごときヴォーカル、メロディを気にしない卑劣なまでの野蛮なリズム、共にゴアグラインドの王道をいく傑作だ。ブックレットには、シリアルキラー好きにはたまらない写真も掲載。

PHOBIA / RESIST & EXIST
split 12"EP
Profane Existence Records(P.O.Box 8722, Minneapolis, MN 55408 USA)

少し前まではクラストといえばミネアポリスとまで言われたくらいだったが、その中心はもちろんこのProfane Existenceだった。で、この復活作。前者PHOBIAは今更説明のしようがないほど完成形に近いグラインドコア。ただし以前よりデスメタル的な要素が減り、その分真正ハードコアな印象が高まった。ブックレットに掲載しているメンバーが着用しているTシャツをみると、なるほど、と思うだろう。裏面RESIST & EXISTは、アジア系ヴォーカリストを含むためCRUCIFIXの影がチラつくアナーコ・ハードコア。ギターサウンドを中心に、出だしを含め随所にメタリックな色をつけ好感度アップ。グレイト!!!

PHOBIA
『Grind Your Fucking Head In』CD
Deep Six Records(P.O.Box 6911, Burbank, CA 91510 USA)

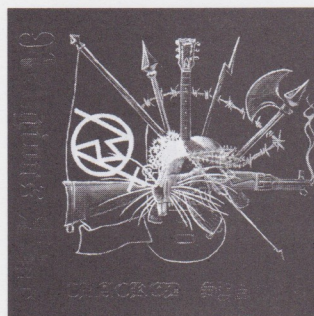
上記RESIST & EXISTとのスプリットに続くニューアルバム。続けて聴いてみたが、通常通りのブラストビートを絡めたスピードと発狂ボイスが、何となく今まで通りのPHOBIAらしいグラインドコア路線の流れの印象を感じさせた。そう思ったのは私だけか? しかしこのヘヴィなサウンド、これはハードコアだとかデスメタルとかいう前に、聴いた者は皆圧倒されるに違いない。終始ブラストを入れて音を粒子に近いほど細かくせずに、固まりにしながらも全く隙間を作らない洪水は、ごまかしがきかないほど凄い。各曲が優れているのはもちろん、曲の流れも良く、アルバム全体としても成立している。LAのグラインドコアの醍醐味満載!!!

PHONOPHOBIA
『.....of The People? By The People? For The People? 』7"LP
Paank Levyt(1-4-9 TAS201 Hatanaka, Niiza-shi, Saitama 352-0012 Japan)

今話題の東京クラスティーズ。彼等に対してクラストという説明が適切かとは思うけど、何なんだ、この破壊的な音楽は!? 絶望感漂う混沌とした廃虚空間、そのうえ曲も良い。このような条件で曲が成立するとは!!! ハードコアが持つ影の部分を強調、そして時にスピードを殺してまで重い世界感を表現している。つまり彼等のセンスの良さが活かされ光っているからなのは当然だが、その結果を生み出したのは彼等の怒りによるものなのか? 私のボキャブラリーでは適切な例えが出てこないほど、この音と空気感はPHONOPHOBIA独自のものだ。それゆえ、誰でも気軽に受け入れられる音ではない、かと思う。とにかくこの轟音は凄い!!!

PIGNATION
『Devastating Life Scheme』CD
Deep Six Records(P.O.Box 6911, Burbank, CA 91510 USA)

誤解のないように控えめにいうと、嫌味にならない程度にGoodlife周辺のニュースクール・ハードコア的なモッシーな曲調をメインとし、どことなく90年代のパワーヴァイオレンスを思わせる複雑な曲展開を導入しているニューアクト。意味あるんだか無いんだがわからんが、やたらとSEを入れてくるのは当時のパワーヴァイオレンス系バンドを彷彿させ、俺的には内心笑顔。スローとファストパートのコントラストが非常に面白い。しかも北欧メタル風の臭いメロディを大胆に入れたメロディック系ニュースクールではなく、あくまでも鋭いエッジがあるハードコアだから良いのだ。俺にとって問題なく格好良いバンドのひとつだと断言できる。

POIKKEUS
『Simpatia Paholainen』7"EP
Crust War
(Distributed by MCR Company:157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

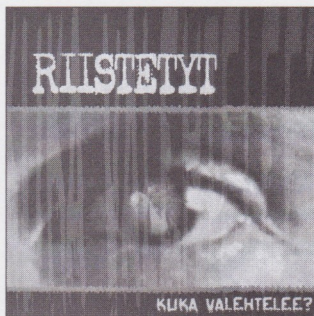
聴き取りやすいメロディとノイズが共存している、フィンランド独特のサウンドを武器にした大阪出身のPOIKKEUSの待望の1stEP。フィンランドから舞い降りた超天然放射性天使PUNX、とはレーベル側の生み出した?キャッチコピーだが、ポジティブに外へ放出する様はまさにその言葉が適切だ。音質も80年代初期を思わせるチープな作りに脱帽。ジャケを含めあらゆる面が徹底して当時のフィンランドを思わせる優れものだが、決して単にマネをしてるだけでなく、オリジナリティな要素もあることを付け加えておく。しかし音はもちろんのこと、表裏のジャケは非常にクールなのに、内ジャケはバンド側のユーモアなノリが見える。

RELIGIOUS WAR
『Cracked System』LP
Hardcore Holocaust(P.O.Box 26742, Richmond, VA 23261 USA)

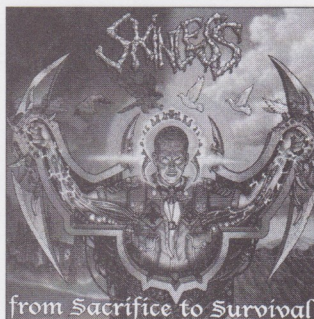
クラストといえば、今はスパイキーなルックスでキメたこのRELIGIOUS WARの出身地であるポートランドなのか? それはさておき、楽曲面でのレベルの向上によって無視できない存在になったと思うのは、スカンジナビアの色も多少はあるけど、何しろ強力なD-deatを主体としたサウンドになっているからなのは言うまでもない。俺好みの殺傷力が異常に高く、かすれたような声でシャウトする抹殺ヴォーカル、そしてダークさとスピードを備えながらも、ギターサウンドで日本のハードコア的キャッチーな感触を味わえるのも魅力でもある。オリジナリティがあるのかどうかは疑問だけど、少なくとも素直にカッコイイと言えるバンドだ。

REVENGE
『Triumph. Genocide. Antichrist』CD
Osmose Productions (B.P.57, 62990 Beaurainville, France)

CONQUERORとORDER FROM CHAOSの元メンバーからなる暴走ウォーブラックの1stアルバム。DRILLER KILLERと少し前にOsmoseから離れたMARDUKを足して割ったような、サウンド、ルックス共に超極悪イメージを持っているので、Osmoseからのリリースも頷ける。ブラストビートを取り入れてグラインドコアを加味した整理整頓されていない野蛮なサウンドは、最後までテンション下げず狂ったように爆走。勢いまかせの喧しいブラック・スラッシュの嵐で、モノクロでキメたアートワークも、メタル側よりもパンク・ハードコア側からの受けの方がよさそうだ。最狂にして最凶ブラック!!!

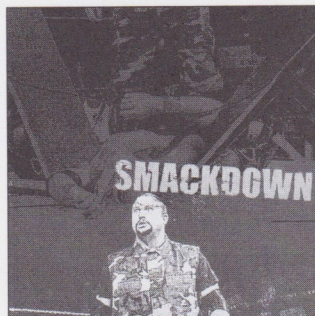
RIISTETYT
『Kuka Valehtelee?』LP
Fight Records (Hikivuorenkatu 17 D 36, 33710 Tampere, Finland)

元々2001年にリリースされたものを、昨年Fight Recordsが再発したLP。ちなみにCD盤はジャケが違うので要注意。この写真からは判りにくいが、多くの人の命を奪った9.11の悲劇的な写真を使用。復活後、非常にメタリックになった印象を受けたが、このアルバムで聴ける曲もその要素を強め、その分重さも強調された感がある。所謂フィンコアというスタイルから程遠くなってしまった気もするけど、もちろん時代の流れによる音質の向上によるところも大きいと思われるが、それはそれで結果的にグレイトになっているから構わないのだ。格好良い曲のオンパレードで、この歌と音の組み合わせは流れるような疾走感を生んでいる。

SKINLESS
『From Sacrifice to Survival』CD
Ritual Records
(Ikebukuro Wakabayashi Bldg 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku, Tokyo 171-0031 JAPAN)

本誌レビューに3度目の登場!!! このSKINLESSはかなりアンダーグラウンド・テイストの強いバンドで、過去に日本でライヴをやった際もそのパフォーマンスはまさにハードコアなノリ満載で、はっきりと証明してくれた。過去リリースした音源も純なメタルの枠内に入る音ではなく、本作においてもハードコア色の強い新型メタル・サウンドを表現、攻撃一辺倒な姿勢はもはやメタルの域を脱している。5曲目のリフなんて明らかにメタル的なリフじゃない。ただ複雑に展開する曲は最近のRelapseサウンドそのものだが、これが今のアメリカの地下メタル・シーンの主流になってきているのだろう。個人的には7曲目のリフも大好き!!!

SKITSYSTEM
『Allt Ar Skit』CD

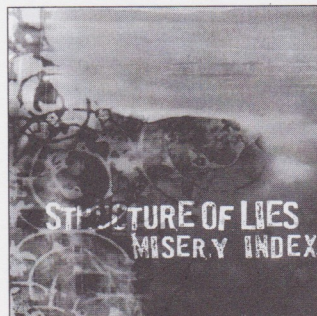
言わずと知れたスウェディッシュ・ハードコアの中でも一目置かれた存在で、1stと2ndアルバム、そして次頁のEP以外の音源を全てブチ込んだ最強編集盤。あらためて聴いてみると、単にスカンジナビア特有の荒々しいノイズ性の高いハードコア・サウンドだけでなく、DISCHARGEを思わせるミッドテンポのメタリックなD-beatも盛り込まれていて、案外いろいろな曲調と要素があることに気付く。メンバーがデスメタル・バンドAT THE GATESに在籍していたりと、彼等のバックボーンの広さが反映された結果なのか? ちなみに同じ内容のモノがDistortion Recordsからもリリースされている。

SKITSYSTEM / NASUM
split7"EP
No Tolerance Records (P.O.Box 543, 611 10 Nykoping, Sweden)

バンドのロゴが入れ替わったナイスなジャケのスプリット盤。スウェディッシュ・シーンの中でもベテランの域に達し知名度と実力共にほぼ同等の両者、遅かれ早かれ実現したであろう組み合わせだ。SKITSYSTEMは通常のノイジーなスカンジ・ハードコアを披露。スピードはそこそこあるけど、余裕すら感じさせる音の持つボリュームはさすがだ。一方のNASUMは、何となくグラインドコア中心としたサウンド展開を控えた印象がある。スピードを控えめにしたD-beatっぽい感じも聴けて、最近のNASUMの中では最強音源のひとつだ!!! 単にグラインドコアとして終わらない点が各方面で受け入れられる要因になっているのかな?

SMACKDOWN
7"EP
Coalition Records (Newtonstraat 212, 2562 KW Den Haag, The Netherlands)

音の前に語らねばならぬ事が多過ぎる! まず何なんだ、このバンド名は!? そのまんまじゃないか! ジャケの表写真はババレイ、裏はジェフとジェリコ。しかも、いきなりイントロからステフとオースチンのマイクパフォーマンス、しかも結構長い!!! 2曲目のイントロはジェリコ、3曲目にいたってはロック様のマイクパフォーマンス!!! 肝心の曲はCHARLES BRONSON風の荒く馬鹿げた軽いノリとスピードを持った極上のハードコアなのだが、何しろSEに気をとられてヤラレっぱなしだ。まともに音楽的感想述べられないのは仕方ないだろ? ビンスやキングもしゃべるし、とにかくオールスター満載。WWE好きは要チェック!

THE SOLUTION
『I don't Like You』CD
MCR Company (157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

約1年振りの新作発表となる岐阜のOi/ストリート・パンク。メロディを損なわない程度にドッシリとしたパワフルなサウンドを持ち味に、自分達が生きる現実を素直に捉えたストリート・パンクの名に恥じないメッセージを絡めている。非常にポジティヴな歌詞と姿勢は楽曲面でも見え隠れするほどで、誰もが共感できるに違いない。出来あがった曲を小出しにせずに、練りに練ったかのような完璧且つ素晴らしい内容。正直、Oiやスキンズ、パンクロックという枠にとどめるだけでなく、もっと広範囲でも受け入れられるほどの許容と存在感がある、と感じた。名曲「Cum on Feel The Noize」も収録しグレイト!!!

STRUCTURE OF LIES / MISERY INDEX
split7"CD
Deep Six Records (P.O.Box 6911, Burbank, CA 91510 USA)

Deep Sixとしては異例のリリース。前者STRUCTURE OF LIESは既に同レーベルからリリースしているが、メタリックな要素を多く含み、Relapse所属のバンドのような奇抜な展開と北欧ブラック系やニュースクールを彷彿させるメロディを大胆に導入。後者MISERY INDEXは、元DYING FETUSのメンバーからなるバンド。前者同様Relapse絡みのバンドを経験しているメンバーが在籍しているだけあって、最近のエクストリーム系バンド特有の複雑に展開し、メタルとハードコアの中間を狙っているかのような音だ。ある写真でヴォーカルがTRAGEDYのTシャツを着ていたのは興味深かった。

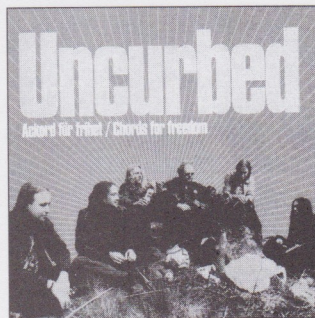
SWARRRM / NARCOSIS
split 7"EP

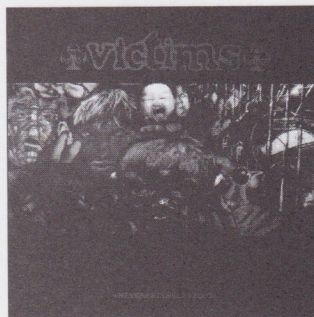
素晴らしい特種ジャケットに身を包んだグレイトなスプリットEP。まず前者SWARRRMは悲痛にも似た叫ぶヴォーカルと、ドラマチックに展開していくグラインドコアとのシンクロナイズにより、聴いていて恐怖すら感じさせる"事"の重さを味わえる。SWARRRMという世界を表現するにあたってコンパクト過ぎるフォーマットかもしれないが、聴いたときに広がる世界感はやはり独自のものだった、と聴き終えてから感じるほどエクセレント!!! 一方のマンチェスターのNARCOSIS。絶望、悲観、マイナスへと向かう音から発する緊迫した空気感が、破壊的且つ極度の緊張を生み出し、その反動によって強烈な音を叩き出している。

TOTAL RUSAK
『Exploding The Cranial』CD
Obliteration Records(3-41-16 Sumida, Sumida-ku, Tokyo 131-0031 Japan)

ついに日本を代表するゴアグラインド・レーベルObliterationより、インドネシア最強のデスメタルがリリースされた。インドネシアやタイといった東南アジアでも、昔からRoadrunnerを筆頭にかなりCDが流通されており、実はこの種のバンドが結構多かったりする。しかも現地の人からすると、音によるインパクトが強いデスメタルの方が、むしろハードコアよりもハードな存在だったりするのだ。このバンドも欧米のバンドと比較しても何ら劣らず、重厚で強烈なブルータル・サウンドは最高品位。緩急がなく初期衝動な押し一辺倒も良い。アジア圏から出現したハイグレードなバンドを同じアジア人として断固支持したい。

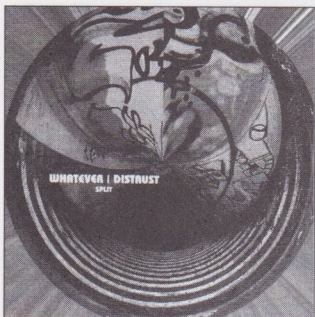
UNCURBED
『Ackord for Frihet / Chords for Freedom』CD
Sound Pollution
(Distributed by MCR Company:157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

前作『Punks on Parole』と同じくセンスの良いアートワークが目をひく新作。3年前のイングランド・ツアー用に制作された音源で、MOTOR HEADをよりハードコア・テイストにしたかのようなロックンロールなパンクを炸裂させ、DISCHARGEをベースに北欧的なノイズ感を強調した不良なサウンドとミックス。いい意味でベテラン勢ならではの安定した楽曲を聴かせ、男気溢れる爆走バイカー・サウンドはUNCURBED以外の何ものでもない。パンクやメタルといった分別の域をはるかに越えたサウンドは、ドライヴ感たっぷりでノリノリ。結構曲調もバラエティにとんでいて、爆音好きなら絶対ウケることでしょう。

VICTIMS
『Neverendinglasting』LP
Deadalaive Records(P.O.Box 42593, Philadelphia, PA 19101 USA)

今年春に重鎮SKITSYSTEMとツアーしたという期待のスウェディッシュ・ハードコア。特徴あるザラついた声質が迫力モンのヴォーカルと、メタリック・ギターに重厚なドラムスが絡み合い、サウンド面においても共通点の多いスカンジナヴィアン・スタイルで疾走する。ハイピッチで飛ばすスピードナンバーも良いが、メタリックにキッチリと聴かせるミッドテンポも良い味が出しているので見逃せない。ただ上記バンドのような微妙な変化をつけたサウンドではなく、大胆に変化させていく箇所は面白い点でもある。ヴォーカルがCHARLES BRONSONのTシャツを着用し、幾分クラストコアから一歩違った方向に行きそうな予感。

WARHAMMER
『Towards The Chapter of Chaos』CD
Nuclear Blast

DISCHARGEの子孫は存在しているが、いそうで意外といなかったHELLHAMMER～初期CELTIC FROSTのフォロワー。HELLHAMMER自体たった6曲しか発表していないので、ファンには堪らない内容のハズだ。でも自分達流に消化したスラッシュは、もはやWARHAMMERならではのサウンドとなったといっても過言ではない。ただ初めて聴いたときは、ホントよく研究しているなぁと感心するのみだったが、聴くにつれてハマってしまうほど中毒性はかなり高いので要注意。特にスローパートでは危険度は増す。本作は過去4枚のリリースされたアルバムに未収録のデモや7"EPの音源を集めた編集盤。でも私は大好きだ!!!

WAVES / HELLBOUND
split CD
MCR Company(157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

ギターサウンドを中心にメタル度の高いハードコアで圧倒する前者WAVESは、1stEPに続く音源だ。振り絞って吐き出したかのようなヴォーカルが、適度なスピードに乗って闇へと連れ込んでいく。特に、3曲目の「Kuro」は10分強にも及ぶ壮大なスケールのインスト・ナンバーで、暗黒世界に入り込んでしまう。夜中に聴くと落ちます。次のHELLBOUNDはカナダの極めて純度の高いクラスティーズ。男女ツインヴォーカルの6人編成で、最初に聴いた印象として若干サウンドがキレイな感じがしたけど、90年頃のクラストコア系バンドを思わせ発狂。適度な荒々しさと雑音が、効果的に聴こえる好印象なクラスト作品。要注目バンド!!!

WHATEVER / DISTRUST
split CD
Scream House Records
(Distributed by MCR Company:157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

DISTRUSTの企画ライヴ「リキラリアット」にWHATEVERが出演したのをきっかけにリリースされることとなったCD。徳山の前者DISTRUSTは、スラッシュメタル以降に誕生した90年代のUNITEDやSURVIVE的なモダンヘヴィネス系サウンド。3人組とは思えないほど重量級でグルーヴ感タップリ。一方、最近勢いを増している京都府舞鶴の後者WHATEVER。同郷のREAL REGGAEと比べても何ら劣ることのないミクスチャーなハードコアで、頭の中でライヴの情景を描けてしまうほど荒々しく、そして生々しい。ここに収録されている曲だけでも独創的な雰囲気は堪能できる。でも基本はファストなハードコア。

WOLFBRIGADE
『Wolfpack Years』10"EP
Farewell Records(c/o Micha Meyer, Heckenstr, 35 HH, 47058 Duisburg)

極悪だ、それも半端じゃないくらいケタ違いの超極悪なサウンドで、超強力!!! 98年から2000年までに録音された音源で、アルバムよりもドッシリと構えた迫力あるミッド・ナンバーに溢れ、まさにバンド・イメージ通りの凶悪ぶりを発揮!!! 太い腕で胸ぐらをつかんで、今まさに殴り倒そうとしているかのような極悪にサウンドに完全KO!!! 既発表曲で構成された10インチEPだが、俺的にはWOLFPACK時代を含め最強のレコードと断言できる!!! 元々カッコ良いスカンジナヴィア流ハードコア・バンドだったわけだが、この収録曲は完璧に近いくらい最強!!! まずは聴いて、ノックアウトされて、最後に震えましょう。

WORLD BURNS TO DEATH
『The Art of Self-destruction』7"EP
Prank (P.O.Box 410892, San Francisco, CA 94141-0892 USA)

現在、全世界で話題騒然(?)の御存知ポートランドの現在進行形チンピラ・クラスティーズ!!! ブッシュを貶したジャケットがインパクト大なLPをはじめ、ブラジリアン・スラッシャーSICK TERRORとのスプリットを含めた全ての音源からして向かうところ敵なし、な存在に駆け上がったハイセンス且つグレイトな大注目バンド。低音域で反復する切れ味鋭いヘヴィなブルータル・サウンドをベースに、聴く者を威嚇して、常に喧嘩腰な態度を貫き且つ強烈なパンチの効いたチンピラ・ヴォーカルが全てを抹殺。ハズレのない曲も見事。"モノマネ"に終わっていないところも良いのだ。全てが理想形といえるクラストの決定版!!!

V.A.
『Comtaminated 5.0』CD
Ritual Records
(Ikebukuro Wakabayashi Bldg 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku, Tokyo 171-0031 JAPAN)

かつてMISERYのEPもリリースしたG.T.G.P.recordsが前身なのだが、それは現在のレーベル・イメージから程遠い。しかし、現在のRelapseは前衛的なデスメタルとグラインドコアが中心のリリースとなっているために、そのイメージを世の中的に植え付けられてしまったものの、このCDに収録されている全45曲を聴くと現在でも実に幅広い受け入れ体勢があることが判る。しかもバンドとしての規模は大きくないけど、知名度や人気が高いバンドばかりだ。全バンドに共通していえるのは、アティチュード面、そして一般的に言われるグラインドコアとの接点があったりするバンドが多いということ。日本盤になっても超低価格!!!

V.A.
『No Hold Back... All Attack!!!』LP
Havoc Records (P.O.BOX 8585 Minneapolis, MN 55408 USA)

アメリカ北部に位置するミネソタ州最大の都市ミネアポリスと双子都市として知られるセントポール、そのツインシティーで活動するDIYバンドの大集結レコードだ。これがまた音楽的に実に幅が広く、コテコテのクラスティーからユースクルー系、ポップパンク系等々様々。発する音に違いがあっても、共通の魂を持ち同じ方向へ進んでいるハードコア//パンクの自然体な気持ちが、皆をひとつにさせているのだろう。ツインシティーのシーンの活性化にも繋がるであろうこの企画レコード、こうした動きは世界的に広がって欲しいところではある。また日本ではちょっと金銭的に難しく羨ましい超豪華LP3枚組。いろんな人が楽しめるレコードだ!!!

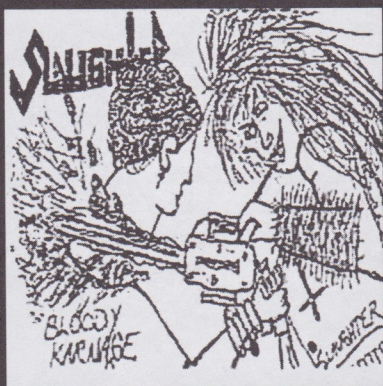
V.A.
『Super Sabado』LP
Prank / Six Weeks / 625

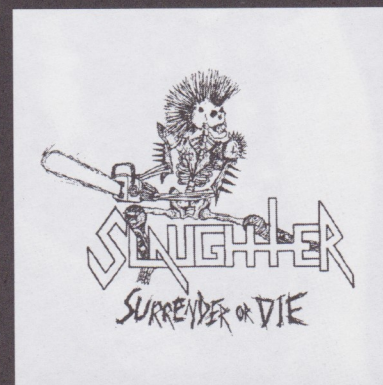
今年ギルマンで行なわれた上記レーベルによる共同企画を記念して制作された限定盤。ベイエリアのスラッシュ・シーンを代表するメンツを含む、強力なスラッシャー・オンパレード。いつの時代にも"旬"なバンドがいるという証明を、なぜか片面のみ溝を刻んでいる12インチの中に詰め込んだ。目玉はまだ音源発表が数少ないスーパーユニットBURN YOUR BRIDGES、人気急上昇中のスラッシュコアMUNCIPAL WASTE。30歳以上のスラッシュ世代の人間は、アドレナリンが大放出して大興奮モノのスラッシュ・メタリックなサウンドに文句なくヤラレるでしょう!!! 更に日本から参戦したBREAKFAST等、聴き所満載。

BACK TO 80'S DEATHRASH!

カナダのSLAUGHTERというバンドをご存知だろうか？ 間違っても全米チャートを賑わせたSLAUGHTERではない（笑）。後者はメロディを大胆にブチ込んだ、いや甘いメロディと典型的なアメリカン・ロックを体現したハードロック・バンドなので興味対象外だ。むろん今回取り上げるのは、80年代のアンダーグラウンドで一大ムーブメントを巻き起こしたスラッシュメタル時代に、早々と所謂デスメタル的サウンドを取り入れた先駆者でもあるSLAUGHTERについてだ。またハードコアの匂いが立ちこめたサウンドが、今聴いても好印象。ちなみに、90年代に入りデスメタルという音楽が音楽スタイルとして確立してからは、SLAUGHTERのようなバンドはデスラッシュと呼ばれていた…。

今ではスラッシュメタルはおろか、デスメタルやハードコアのレコードさえも簡単に入手できる時代になったが、80年代はそうはいかず、今回取り上げるSLAUGHTERに限っていえば、当時新宿にあったディスクランドというアンダーグラウンド・メタルの専門店に行かなくてはまず日本においては入手不可能だったと記憶している。店舗の大きさとしては高円寺のグレイト・ショップBOYくらいの広さで、同店のブートレッグ専門店舗が隣接していた。品数の多さはとにかくもの凄くて、スラッシュメタル、デスメタルはもちろんのこと、グラインドコア、クラストコア等々が充実していた。その中から私はSLAUGHTERを恐る恐る手にとった。Z級ホラー映画みたいな品のないイラストのジャケット、当時の私としては聞いたことも見たこともレーベルからのリリース、SLAYERに何となく似たロゴ、当時珍しかった(と思う)3人編成等々、惹き付けられる魅力満載のレコードだったわけだ。余談だが、今思えばこうしたレコードが他店ではほ

ぼ入手不可能だったためか、レコードの値が異常に高かった。で、そのSLAUGHTERはというと、当時の主流だったベイエリア・スタイルのスラッシュメタルとはあきらかに違ったスピード且つ荒々しい次世代サウンドで、より過激なサウンドを求めていたファンの心を虜にしていったのだ。また一連のスラッシュメタルと違って、スローダウンをしてメロディックになったり、当時どのバンドもアルバムには必ず導入するほど流行っていたメロメロな曲は一切なく、攻撃一辺倒なサウンドで、その点からもデスメタルやハードコアを色濃く感じ取れグレイトだった。

『Bloody Karnage』EP

恐ろしくチープなジャケットが魅力の1stデモテープの7"EP盤。350枚プレスされたのだが、ブートレッグの可能性が高い。下写真はなぜか最近出回った『Bloody Karnage』のカセット盤。

『Surrender Or Die』CD

HELLHAMMERの「Massacra」もカヴァー収録し、名作との呼び声も高い2ndデモテープのCD盤。今改めて聴き直してみても、世界的に大反響になったのが頷けるほどグレイトな内容だ。『Strappado』よりもハード路線で超お薦め。

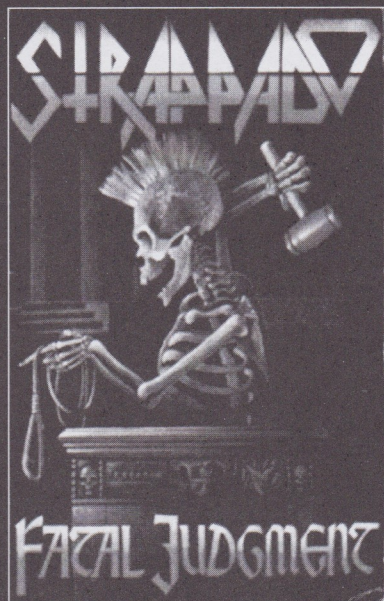
SLAUGHTERはTerry Sadler(ヴォーカル/ベース・ギター)とDave Hewson(ヴォーカル/チェインソー・ギター)、そしてRon Sumners(ドラムス)によって、1984年8月にカナダのトロントで結成した。当時スラッシュメタルでさえも一般的に認知されていなかった、そんな時期にも関わらず、スラッシュメタルというよりも今で言うデスメタルの"はしり"なサウンドは、とにかく斬新であったのは言うまでもない。その1984年、彼等にとって最初のデモテープとなる『Bloody Karnage』をレコーディングし、DIABOLIC FORCE/FRINGE RECORDSからリリースした。

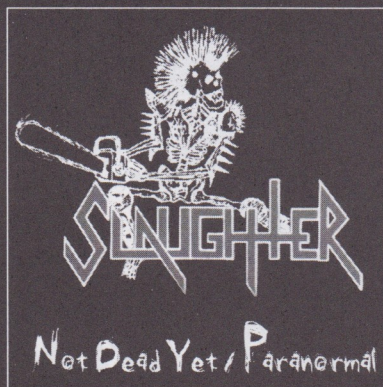
『Strappado』LP

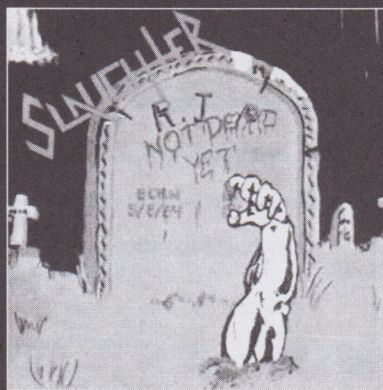
予定より1年遅れでリリースされた事実上唯一のアルバム。スピーディーなナンバーを中心としたクロスオーバー/スラッシュメタルを基本に、より激しさの増したデスメタル的な斬新な音を取り入れている。所々クランチを効かせ、時代性を物語る。まずこれを聴かないことには話にならない名作中の名作。近年リマスターして再発した。

『Nocturnal Hell』EP

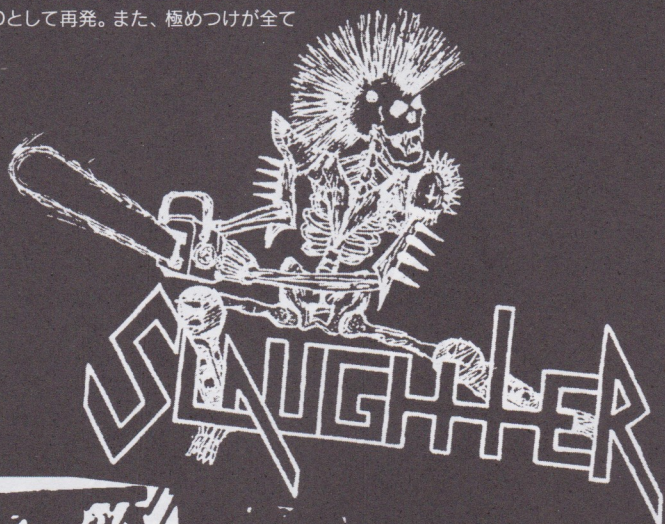
『Strappado』のシングルカット盤として制作された7"EP。

続けて4月に2ndデモテープ『Surrender Or Die』もリリースしたのだが、これが予想以上に大反響で、80年代世界的にマニアの間で行なわれていたテープ・トレードによって世界中にデモテープの反響は広まった。ちょうどその頃のカナダのスラッシュメタルといえば、DISCHARGE的な要素を色濃く出していたVOIVODを筆頭に盛り上がりつつあり、SACRIFICEやRAZOR、INFERNAL MAJESTYといった所謂第2世代のバンドが数多く出現し、シーンそのものも活性化、当然SLAUGHTERもそのスラッシュメタルの波に乗ることとなる。ちなみにそのVOIVOD、元METALLICAのJasonが加入し、現在ヘヴィメタル・シーンでは人気急上昇中。
話を戻して、1986年1月初頭頃、あのChuck Schuldinerを加えた4人編成となったのだが、後に彼は自らのバンドDEATHやCONTROL DENIEDを結成するために即脱退している。同年2月、DIABOLIC FORCE/FRINGE RECORDSからデビュー・アルバムである『Strappado』をリリースすることを決定したが、レーベルとのトラブルによって1年間もリリースされなかった。BLACK SABBATHとオールドスクール・ハードコアやパンクをミックスさせたようなサウンドのヘヴィでドゥーム・スラッシュメタルなアルバムに仕上がっていて、1980年代のアンダーグラウンド・メタル・シーンの伝説的バンドとなったきっかけとなったアルバムでもある。今にして思えば、理由はどうであれレーベルとのトラブルによってレコードのリリースが遅れたことが解散の原因にもつながったように思う。

『Fatal Judgement』Tape

STRAPPADO名義でリリースされたデモテープ。300本制作されたらしい。

『Not Dead Yet/Paranormal』CD

当初2ndアルバム用としてリリースが予定されていた『Paranormal』の4曲と、1991年にSTRAPPADOなる新しいバンド名で再活動した際に制作されたデモテープ『Not Dead Yet』、さらに1988年のライヴ4曲を収録。全曲リマスターされ近年再発表された。下写真はSTRAPPADO名義になってからリリースされたブートレッグ盤『Not Dead Yet』。

1986年の年末、ドラマーのRon Sumnersが脱退しBrian Lourieが代わりに加入、セカンド・ギターリストとして元LEATHAL PRESENCEのBobby Sadzakを加えて、後に『Paranormal』と言われることとなる2ndアルバムのレコーディングを開始した。「Nocturnal Hell」や「Tortured Souls」といった『Sarappado』に収録された曲もBobbyを入れた4人で再録し、スピードメタル以上にヴァイオレントな歌詞とサウンドを取り入れることを可能にした素晴らしい内容だった。これまでも80年代初期のハードコアからの影響はサウンドに反映していたのだが、80年代中期から後期にかけてのクロスオーヴァー/スラッシュメタルなスタイルが全盛だった当時、このようなよりヴァイオレンスなスタイルを求めていくのは当然の成りゆきだったと思う。その2ndアルバムもリリースが遅れて、結局1989年後半に延期してしまった。しかし、バンド内にもいざこざがぼっ発。これによってバンドの創始者であるTerry Sadlerは、バンドを解散させると決意した。TerryがSLAUGHTERを結成した際のオリジナル・メンバーであったギターリストDave Hewsonは、Brian LourieとBobby SadzakさらにMike Daltonというベーシストを誘い、SLAUGHTERの進化形のバンドSTRAPPADOを結成。1990年から1994年しか活動はしなかったが、その間『Not Dead Yet』と『Final Judgement』の2本のデモテープをリリースしている。

SLAUGHTERもSTRAPPADOも解散してしまったハズだったが、1996年、CELTIC FROSTの「Dethroned Emperor」をカヴァーしレコーディング。この音源はDWELL RECORDSよりリリースされた『In Memory Of CELTIC FROST』なるトリビュートCDに収録されている。恐らくSLAUGHTERのメンバーだったDave Hewsonが参加したINNER THOUGHTというインダストリアル的要素のあるデスメタル・バンドが、同レーベルからリリースされたのがきっかけではないかと思う。さらに2000年には2ndデモテープ『Surrender Or Die』をUTOPION VISION MUSICよりCD化して再発。現在こうしてSLAUGHTERが伝説的なバンドとして語られるのも、間違いなくこの2ndデモテープがあってのことだ。約20年前のサウンドとは思えない鋭い攻撃性を

持っていて、スピード感、荒さ、等々あらゆる点が既に究極のメタル・サウンドを作っていたことに改めて気付く。更にさらに、翌年には伝説的なある意味唯一のアルバムとも言える『Strappado』LPをスペシャルなデジパック仕様として、SLAYERのカヴァー曲を含めライヴ・トラックを追加しCDとして再発。また、極めつけが全てのファンが狂喜した『Not Dead Yet/Paranorma』の同時期リリース。結局、何だかんだであまり世に出回らなかったSTRAPPADO時の音源を追加して、1988年のデモ音源や1986年のライヴ・トラックを収録した豪華な内容になっている。

INTERVIEW

ある意味、時代を先取りしたサウンドによって、彼等が活動していた時期には強烈過ぎて受け入れられなかった感は否定できない。しかし、解散してから長い年月が経っているものの、昔の音源の再発に伴い、ようやく正当な評価が下されたように思う。色褪せるどころか、今聴いても新鮮に聴こえるSLAUGHTERサウンドをこの機会に聴いてもらいたい。その当時、バンドの主導権をほぼ握っていたといえるTerryにインタビューすることに成功!!! まだまだ熱い魂は宿っているぞ!!!

── 最近はどう? 良いこととかあった?
Terry:『Strappado』を再発させたのは良かったね。でも最悪なのは『Strappado』のリリースが遅れたことだな。あと会社が俺から金をしぼり取ろうとしていることもムカつくぜ!

── さて、もの凄く恐ろしいバンド名だけど、どうしてこんな名前にしたんですか?
Terry:そうだな、俺達を表現すると地獄のような凄いヘヴィなバンドだからなんだけど、俺としては素晴らしいバンド名だと思うね!

── SLAUGHTERがリリースしたレコードを教えて下さい。
Terry:1984年に結成して、翌年『Surrender Or Die』、1985年に『Strappado』、1988年に『Paranormal』という3枚のアルバムをリリースしているよ。でも1990年に解散してしまったけどね。

── なぜ解散したの?
Terry:音楽業界、特に商業音楽のたわごとにはうんざりしていたし、バンド内もいざこざが絶えなかったし、俺としても自分の生活を取り戻したかったからだよ。

── 解散したにも関わらず、2年前昔の音源をリリースしたのはなぜですか?
Terry:昔リリースしたアルバムを再発してほしいと、たくさんの意見が寄せられたからなんだ。それで、超レアなボーナス・トラックを入れたCDを再発するということになったのさ。

元の写真も荒れている上に、そのコピーなのでどうしようもないくらい酷い画質だが、1986年にChuck Schuldiner加えてライヴを行なっていた時のもの。左からDave、Terry、そして偉大なるChuckの勇姿。

── SLAUGHTERはデスメタルのパイオニアだと思っているのですが、どう思いますか?
Terry:そうだね、間違いなく俺達はデスメタルの第一世代のひとつだろうな。まず、俺はSLAUGHTERの前に、1978年頃にLIZZY BORDEN & BATTLEAXEというバンドにいたけど、1984年頃までアルバムをリリースするチャンスが無かったんだ。だけど他の奴らよりも早い時期にスラッシュ・ソングを作りはじめていたんだ。「Disintegrater」は元々「Battleaxe」って呼ばれていた曲なんだけど、1979年に作った曲なんだぜ。JUDAS PRIESTの「Exciter」の俺達的に解釈して作ったんだけど、「Disintegrater」と「Exciter」を聴き比べて歌詞をよんでもらったら、もしかしたら「Exciter」との接点が見えてくるかもよ。

── 触発されたバンドを教えて下さい。
Terry:JUDAS PRIEST、IRON MAIDEN、KISSの初期4枚、SLAYER、METALLICA、BLACK SABBATH、SEX PISTOLSとかだね。個人的にベースプレイヤーとして影響を受けたのは、Gene SimmonsとGeezer Butlerだな。

── あのDEATHのChuck Schuldinerとセッションしたって聞きましたが、この件について教えて下さい。
Terry:ちょうど『Strappado』LPリリース前の1986年1月に、2週間程度なんだけどChuck SchuldinerにはSLAUGHTERでプレイしてもらっていたんだ。その間、

5曲Chuckに作ってもらったんだけど、最終的にはその曲はSLAUGHTERに使われなかった。で2週間後、Chuckは彼自身のバンドDEATHを結成したんだよ。

── その頃のカナダのシーンはどんな感じだったんですか?
Terry:そのアルバム・リリース前後はたくさんのバンドが結成され、とても活気があって素晴らしい状況だったね。でも1990年以降、急激に尻つぼみになっていったんだ。ハウスやトランスといったクソ・ディスコ・ミュージック流行りはじめて、クソDJがクラブを占領しはじめていったんだ。最悪な町になっちまったよ!!!

── では現在のスラッシュメタル、デスメタル、ハードコアのシーンはどう思いますか?
Terry:どれもリサイクルされたゴミばっかりで、俺は嫌いだね。オリジナルやパイオニアなバンドが評価されていないしな。

── 今はもうバンド、または音楽に関わっていないの?
Terry:そうだね。俺は音楽シーンとは関係ない普通の仕事をしているよ。

── ところで日本についてのイメージを聞かせください。
Terry:昔からグレイトなバンドがいて、素晴らしい歴史が日本にはあるよね。あと日本のファンは、一番最初に伝説的なTHE RUNAWAYSやCHEAP TRICK、JUDAS PRIESTを受け入れたんじゃないかな。

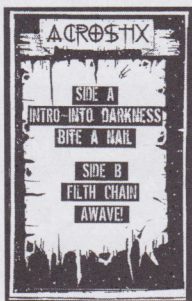
── 今後の予定は?
Terry:俺の手によって俺の口と酒が一体となり、美しく優雅に歳をとっていくよ!!!(爆笑)

── では最後に一言お願いします。
Terry:日本のファンが血まみれ大虐殺な俺達の音楽を聴いて、熱狂してくれることを望んでいるよ! そんな酔いしれている中で、俺達が復活したら素晴らしいだろうな!!!

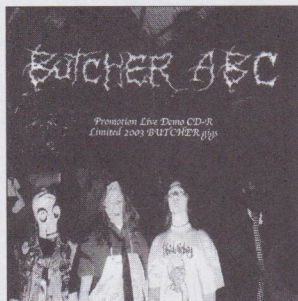
しかし、なぜ今の時期にSLAUGHTERを取り上げるのかといえば、カッコ良いから、と単純な理由なだけだ。別に復活の兆しがあるわけでもない。ただ当時、ファンジンを除きアンダーグラウンドへ目を向けるなどまずありえず、一般音楽誌ではデスメタルはおろかスラッシュメタルでさえも、ろくに取り上げられることがなかったので、良いバンドなのにも関わらず埋もれてしまっているバンドがSLAUGHTERをはじめ、80年代中期から後期にかけては実に多い。
当時、デスメタルという音楽が音楽として定着していなかったので、SLAUGHTERはあきらかにスラッシュメタルの中のデスメタル"一派"として括られていたと思うけど、サウンド・プロダクションの低さによって軽く聴こえるかもしれないが、間違いなく90年代以降のデスメタル・バンドへの影響は計り知れない。しかしメタル・サイドからは粗悪な音楽として扱われ、その典型的な例として日本が世界に誇るメタル専門雑誌『Burrn!』が「What is Death Metal?」と題しデスメタル特集(※)を組むなどしていたとはいえ、このようなバンドが決して100%政治的な歌詞を歌っていたわけではないが、間違いなくアティチュードやサウンド面において従来のトラディショナル・メタルじゃないのはあきらかで、メタル・サイドよりもハードコア・サイドからのウケが良かったのは当然といえば当然だ。結局メディアで扱われなくても、素晴らしいバンドはいるということです。

※12年前という過去にあったことをほじくり返すようで申し訳ないが、この『Burrn!』誌の特集は後味の悪いシャレにならない最低な特集だった。特集というとシーンの後押しをしてくれるような好意的な内容だと思えるけど、とんでもない。当時の編集長を含め、編集部スタッフ全員で(当時)新しい音楽スタイルだったデスメタルやグラインドコア、またはSLAUGHTERのようなデスメタルの先駆者的なバンドをけなす内容だった。しかも、バンドだけでなく僕らのようなファンまでも馬鹿にする始末。普段RATTやBON JOVIを崇めている雑誌なのだから理解できないのはわかるが、書いてあることが度が過ぎていたので腹立たしかった。今では想像もできないだろうが、CARCASS、DEICIDE、SODOM、OBITUARY、ENTOMBEDといった大御所はもちろん、後に同雑誌の表紙にもなったSEPULTURAでさえも酷い扱われ様だった。偶然だが、全米チャートを賑わせたお色気同名異バンドのSLAUGHTERが、同号にポスター付録されていた(笑)。

Record Reviews PLUS

レコードレビューのコーナーで紹介しきれなかったCD-Rやデモ音源を紹介。ベテラン勢だけでなく新進気鋭のバンドまで様々だが、その多くは各ライヴで大抵入手できるハズ。ライヴへ行こう!

ACROSTIX

かつてこれ程話題になったバンドは存在したか? 少なくともここ最近ではトップクラスの注目度と人気、独創性を兼ね備えた四日市のハードコア・バンドだ。地元三重だけでなく、日本各地でライヴを行なっているので観れるチャンスは多いと思う。共演したバンドの色が違っていても、自分達の出番になるとすぐにACROSTIX一色に染めあげる脅威の世界観。

SIN:三重県四日市市白須賀2-4-20-4

BUTCHER ABC

ガスマスクで身を包んだ注目のデス・グラインド。ビジュアル・イメージもさることながらライヴの格好良さは誰もが認めるほどで、地下臭満載の迫力。覆面被っているにもかかわらず、動き回るので息苦しいのではと心配になってしまうけど、ステージ上に繰り広げられるデス・グラインドは好き嫌い関係なく虜にする。楽曲センスもグレイト。BUTCHER ABCのライヴ時のみ販売。

DAMAGE DEPOSIT

既に1stEPをリリースしてるけど、これは初音源のデモでクオリティーの高さに驚いた。しかもヴォーカリストはなんとあのFelix Havocで、この時点では5人編成。彼がかつて絡んでいたバンドのようなクラスティーでもグラインドでもなく、アメリカらしいテンポの良いファストなハードコア・サウンドだ。初回300枚のみ手書きのナンバリング入り。

Havoc Records : P.O.Box 8585, Minneapolis, MN 55408 USA

DIE YOU BASTARD!

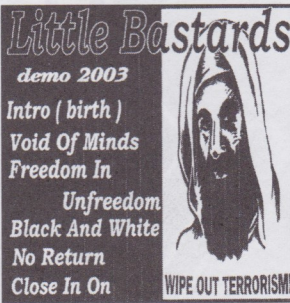
『Underground is A Only Truth!!』

現時点での最新音源。精密且つ攻撃的なブラストビートを多用した、超ハイグレードなIRON FIST辰嶋氏のドラミングを軸に力強く爆走する。この正確さはTERRORIZER並かそれ以上だ。もっともライヴ数が多く、誰もが体験し凄さを感じ取っているはずなので今更ここで説明する必要もないと思うが…。「Fight Fire With Fire」をD.Y.B!流にアレンジし強化!!!

H.Y.K. Records : 2-54-1 Takamatsu, Toshima-ku, Tokyo 171-0042 Japan

FORTITUDE

大阪を中心に活動中で、巨漢メンバー含む噂のグラインドコア。メタル系グラインドというよりもPHOBIAのようにクラスト成分が強く、荒々しく突き進むド迫力なグラインド・ナンバーが続き終始圧倒する。さらにメンバー自身が『Grind Osaka』なるファンジンを発行したりと、地元大阪のグラインドコア・シーンに貢献しているので要注目。

Mike Abe : 3-2-18 Midorigaoka, Heguricho Ikomagun, Nara Japan

LITTLE BASTARDS

ご存知埼玉のクラストコア・バンドの最新デモ。ライヴ時は世の中で起こっている事件や疑問に対して非常に謙虚な姿勢を伺わせながら、グラインド・クラスティーな曲にのって叫び、ステージ上を激しく動き回る。それを再現するかのようなライヴ感があるデモなのだ。関東地区ではこの種のバンドってあまりいないのでは? 是非体感してほしい!!!

Glory : 1-21-35-103 Ohara, Kumagaya-shi, Saitama 360-0812 Japan

HARA NO ES MEJOR QUE EL ALACRAN TORRES! ¡SALDIVAR SORPRENDERA FRENTE A LAGUNA!

※ISSUE1～3は現在売り切れ中のため、店頭在庫のみです。
入手御希望の方はハードコア取扱い店舗(この号を購入した店舗なら確実!)にお問い合せください。
次号は2003年9～10月発行予定です!!! またネタ、広告、ライターも随時募集中です。

FAST FOR SPEED FREAKS

underground fast hardcore magazine from tokyo

ISSUE 4

FAST for speed freaks #4

skitsystem
guillotine terror
slaughter
wolfbrigade
bathtub shitter
disgust
swarrrm

F-FACTORY

FOR SPEED FREAKS

core magazine from tokyo

ISSUE 4

stem

FAST for speed freaks #4

F-FACTORY